

物性研だより

第32卷
第1号

1992年5月

目 次

○ 物性研・軌道放射物性部門に着任して	神谷 幸秀	1
○ 物性研に着任して	藤井 保彦	4
○ 第2回物性専門委員会（第15期）議事録		6
研究室だより		
○ 中性子回折物性部門	山田 安定	10
物性研究所談話会		
物性研ニュース		
○ 東京大学物性研究所 助手公募		16
○ 東京大学物性研究所における大学院修士及び博士課程		
進学ガイダンスのお知らせ		18
○ 人事異動		20
○ 平成4年度 物性研究所協議会委員名簿		24
○ 平成4年度 共同利用施設専門委員会委員名簿		25
○ 平成4年度 軌道放射物性研究施設運営委員会委員名簿		26
○ 平成4年度 外来研究員等委員会委員名簿		26
○ 平成4年度 人事選考協議会委員名簿		27
○ 平成4年度 中性子回折装置共同利用運営委員会委員名簿		27
○ 平成4年度 前期短期研究会一覧		28
○ 平成4年度 前期外来研究員一覧		29
○ 平成4年度 中性子回折装置共同利用課題採択一覧		58
○ 平成4年度 後期共同利用の公募について		64
○ テクニカル・レポート 新刊リスト		83
第37回 夏の学校		85
編集後記		

東京大学物性研究所

ISSN 0385-9843

物性研・軌道放射物性部門に着任して

神 谷 幸 秀

昨年10月に、筑波研究学園都市にあります高エネルギー物理学研究所（KEK）から物性研に着任しましたが、光陰矢の如く既に半年が過ぎてしまいました。物性研では、所の将来計画である高輝度放射光計画の推進のお手伝いをさせていただくことになっております。微力ではございますが、誠心誠意、努力する所存でありますので、皆様の御指導御鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

1年半ほど前になるかと思いますが、物性研に来ないかという話を頂いたとき、まず考えたことは私のような加速器屋（もう少し格好良く言いますと加速器物理屋、英語で言うともっと格好良く Accelerator Physicist）が物性研に行って何なる？、KEKのP F（フォトン・ファクトリー）にいた方が加速器屋として面白いんではないか？と思い、一応、お断りいたしました。しかし、石井先生、（粘りの？）柿崎先生に再考を促され、また高工研での恩師である加速器部第一研究系主幹の木原先生やP Fの諸先生方に相談いたしまして、その結果、SORリングという加速器はあるものの、全般的には加速器とは関係のない物性研究を第一とする物性研で加速器をやるもの、へそ曲がりとしては悪くないのではないかと思い応募することにいたしました。そうしましたら、（何をお間違えになったか、当人としては知る由もありませんが）お前を採用するから10月から来いということになってしまいました。しかし、物性研に来ましたのは単にへそ曲がりばかりでなく、（建て前の）理由として、(1) P Fで、十数年、些か禄を食んだ身としては、日本に一つ、VUV、軟X線用の高輝度光源を早急に建設する必要があるのではないか、そして建設するとしたらP Fの協力の下に物性研でやるのが最も現実的で、もっとも望ましいことではないかと思ったからです。また、（大層な理由ですが）(2) 現在、加速器科学は高エネルギー実験のためばかりでなく、放射光に代表されるように多方面の分野で応用されかつ最先端の科学技術を駆使する学際的なものとなってきており、さらにプロジェクトが巨大になるにつれ多くの人材を必要とするようになってきております。その結果、加速器コミュニティも急速に大きくなってきておりますが、素粒子実験のための単なる道具として加速器が開発されたという由来のためか、加速器科学というものの重要性がそれほど世の中で認知されていないというのが現状ではないかと思います。欧米では加速器に関する科学・技術の重要性を広く知らしめるべく、いろいろな努力が払われていますが、日本では、残念ながらその努力がそれほど報われていないのではないかと思われます。今までも、いくつかの大学、研究所で何人かの加速器を専門とする先生方が御努力をされてきたことと思いますが、私が物性研に来ることによって何かでもこのための一助となればと思うとともに、直轄研と大学との人事交流の一端を担っていることになればと思っております。(3) さらに、今までの恩返しのためにも、将来を担う加速器の若手を小数でもよいかから育てられないだろうかとも思ったからです。しかし、その他にも、個人的な理由があります（これが本当の理由かも知れませんが）。(1) P Fでは忙しくて出来なかっ

たが、もう少し加速器の勉強が出来るのではないか（これは既に幻想であるということがわかつてしましましたが）。(2)本来、放浪癖があるにも関わらず、加速器なぞをやってしまったために、14年も1ヶ所にいついてしまった。(3)田舎育ちのためか東京は嫌いだが（今でも環境のすばらしい筑波を気に入っています），将来計画のリングはどうせ都心には出来ないだろうから、少し我慢すれば田舎に行けるだろう。(4)もし、将来計画がつぶれたとしても、しばらく東大の先生をやっていったということであれば、甘いかも知れませんが、5人(+α?)の子供の飯を食わせることぐらい何とかなるのではないか等々。

さて、物性のぶの字も知らず、物性研に着任してみると、物性研には著名、高名な先生方がおられ、近寄り難く思っておりましたが、実際には気さくに声をかけて下さりほっとするとともにたいへん感謝しております。また、学生の時には冷酷に見えた事務の方（これは物性研の事務ではありません）が非常に親切で官僚的でないのも嬉しく思っております。また、軌道放射物性部門及びSOR施設の方々にはいろいろと親切にしていただいており感謝しております。この半年間、田無やKEKにいることが多くあまり六本木に顔を出しておりませんが、さぼっている訳ではありませんので、今後ともよろしくお願ひいたします。先日、ある訪問者がいたことをネタに極限4部門を見学させて頂きました。正直に申しまして、こんな古ぼけた建物の中に、こんなすばらしい研究設備があり日夜優れた研究が行われていることに感銘するとともに、素人ながらたいへん楽しい1日を過ごさせて頂きました。思い返せば、私は物性科学を一つの柱とする東大教養基礎科を卒業しており、記憶の彼方ですが、そこでは固体物理学や結晶学の数科目が必須としてあったのではないかと思います。しかし、大学の授業という授業は最初の1、2回はさておき、ほとんど出ませんでしたので、何を教えていただいたのかわかりません（先生方ご免なさい！）。とにかく、特にそれほど悪いことをしたわけではないと思いますが、単位は取れたようです（結晶学では悪いことをしたかも知れませんが）。ただ、物性関係ではキッテルの教科書、阿部先生の統計力学、久保先生の統計力学等の教科書が面白かったという記憶があります。また、3年か4年の時、六本木にゼミで来ておりまして、今より新しかった物性研の建物を何度も横目で見ております（ですから、このゼミには真面目であったと思いますが、ゼミは物性研ではなく生産研で行われていました）。

最後に、今後の抱負のようなものを述べさせていただきたいと思います。

(1) まず、人手不足ではありますが、ユーザがいるかぎりSORリングを運転し続けることはSOR施設の義務であるとともに、加速器屋の使命ではないかと思っております。リングは老朽化が激しいですが、それなりに手当をすれば、ユーザ・コミュニティまたは然るべき機関で脳死を宣言されるまで、病院に入ることもあるとは思いますが、しばらくは生き長らえることが出来るのではないかと思います。また、その後、生き返って世間を騒がせることのないようにするのも加速器屋の仕事かも知れません。(2)物性研の加速器の人員は現状では圧倒的に不足しておりますが、国内の加速器屋の協力を得つつ、将来計画の設計研究を推進して行きたいと思っております。(3)また計画

が実現するまで可能な範囲でR & Dを進めていくとともに、些か欲張りかも知れませんが、より広い範囲の加速器研究も出来ればと思っております（想いに反して、能力、体力の限界を感じる年頃ではあります）。

物性研に異邦人が来たため、何かと御迷惑をおかけするとは思いますが、叱咤激励の程、よろしくお願い申し上げまして、着任の挨拶とさせて頂きます。

物性研に着任して

藤井保彦

本年1月1日付けで中性子回折物性部門に着任していますが、3月31日にて前任地筑波大学物質工学系の併任も終り、両足を物性研に突っ込んだ生活が始まりました。助手時代「もう帰りません」との約束で物性研を離れると同時に10年余り慣れ親しんだ中性子回折からも離れ、シンクロトロン放射X線回折に飛び込んだのが1979年。以来各国競って建設期にあった（第2世代）放射光施設の起ち上げ、試行錯誤の運営、共同利用などを13年間経験し、今まさに第3世代の放射光施設建設が始まろうとしている最中に、再び中性子コミュニティに戻って来ました。

わが国の中性子回折は、日本原子力研究所研究用第3号原子炉（JRR-3、東海村）の改造、利用運転開始（1990年11月）をもって第3世代に入ったと言うことができるでしょう。この中性子線源の性能がトップレベルにあることは、国内外の多くの研究者が身をもって経験しており、今後は言うまでもなく世界トップレベルの研究成果が期待されています。本年度は物性研の装置群建設5ヶ年計画の最終年度に当たり、いわゆるハードウェアが完成します。このプロジェクト推進に当っては文部省、学術会議（研連）、東大（事務局、原総センター）、原研、そしてもちろん物性研内の全面的なご理解とご協力を得て、前任の山田安定先生と前々任の星埜禎男先生が中心となって進められてこられたわけですが、これでこれまで掲げてきた3大目標；

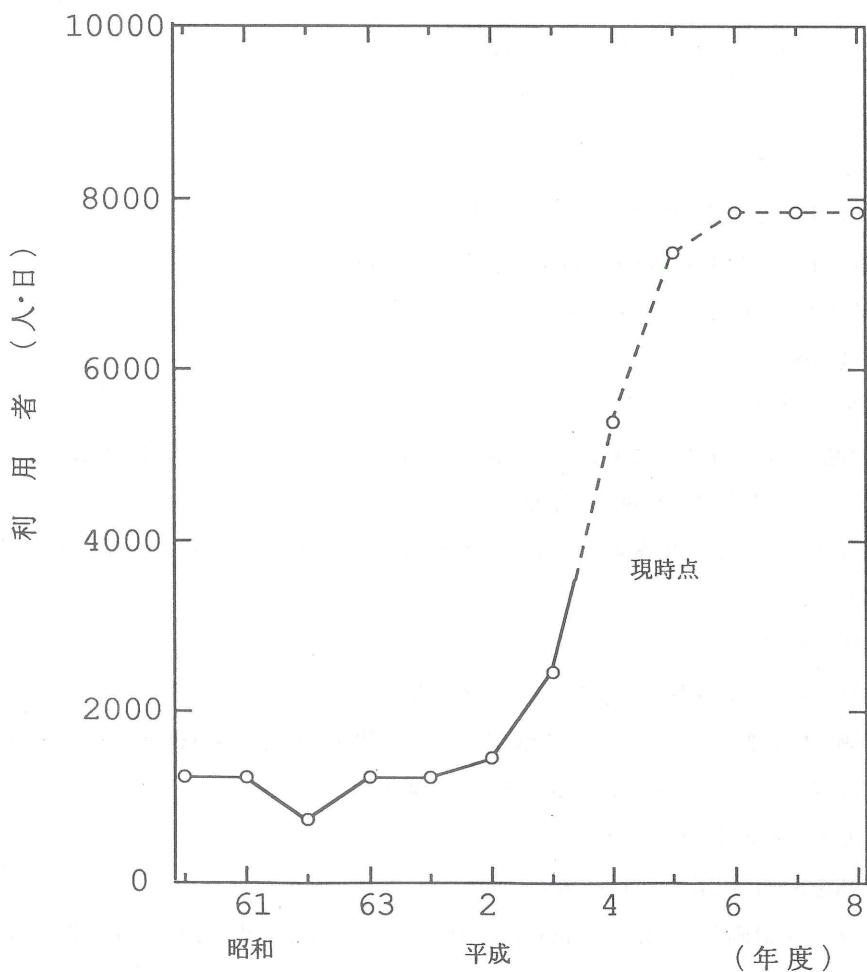
1. 中性子分光装置群の拡充
2. 利用運営体制の整備
3. スタッフの東海地区常駐体制

のうち、1が達成されることになります。この1のハードウェアの性能をフルに発揮できる維持管理体制や新しい測定技術などの開発研究組織を整備するとともに、物性に限らず広い分野での優れた研究課題の発掘、全国からのユーザー（いや世界中のユーザー）が実験に専念できる環境作り、物性研スタッフが共同利用のサービスを行なながら活発な独自の研究活動を維持できる組織作りなど、主に2、3に関係したソフトウェアの整備が今後の重要課題です。すなわち、図で予測されるように急増するユーザーに対して上に述べた条件を保証するためには、これまでの仕組みでは対応しきれないことが多く、1～3のハード、ソフト両面を完備した「中性子回折物性研究施設」をぜひとも早急に実現し、責任ある共同利用研としての使命を果たさなければなりません。この施設こそが、今世紀最後と思われるわが国のビーム実験専用高性能研究用原子炉JRR-3を最も有効に利用する手立てになり得ると信じています。

パルス中性子源（加速器利用）については、既に高エネルギー研にブースター利用施設が整備されて活発な活動を展開しているので、これと相補的役割を果たすことが期待されている定常中性子源（原子炉利用）についても、安定した研究基盤を保証する施設実現が強く望まれます。そして、

両施設が充分に共同利用研としての使命を果たし、広い分野で中性子回折・散乱の実験手法の有用性が認識され、さらに国際的にも独自性と求心力を持った魅力的な施設として成長すれば、中性子コミュニティの将来はおのずから開けてくると思われます。

施設実現に向けては、国内外のユーザーの熱い声援を背に、多くの機関のご理解を得ながら努力いたしますので、皆様の一層のご支援をお願いいたします。



第2回物性専門委員会（第15期）議事録

日 時 1992年1月16日(木) 13:30～17:00

出席者 伊達宗行, 石井武比古, 遠藤裕久, 遠藤康夫, 興地斐男,
勝木渥, 小林俊一, 竹内伸, 張紀久夫, 長岡洋介,
中嶋貞雄, 目方守, 守谷亨, 山田安定

[報告]

1. 学術会議（第113回）（伊達）

- SSCに関して3項目の要望書を政府に提出した。
- 第15期活動計画を決定（詳細は月報1月号を参照されたい。）した。要点の一つは「大学、国立研究所の貧困問題」への対応である。

2. 物性研究所報告（竹内）

- 辛、神谷、藤井、3氏の人事を決定した。
- 将来計画：今年度末までに第2次案概要をまとめる。そのための常任委員会に物性委員会から推薦された3名（伊達、川村、小松原）を外部委員として加える。キャンパスについては東大全体の計画の一環として考えている（柏が有力候補で、駒場第2キャンパスに移転する可能性も検討されている）。

3. 基研報告（長岡）

人事5件がある。物性関係は小貫氏の後任を募集中。

将来計画：概算要求に、北白川・宇治統合のための建物、物性関係部門増を入れたが通らず、特別設備費（ワークステーションシステム）が通った。

4. 高エネルギー研究所SR（石井）

- TRISTANをSRに転用する計画の議論が進行中。
- post TRISTAN計画としては、B-factory計画もあり、それとの共存が出来るか出来ないか微妙なところである。

5. 物性グループ（長岡）

91年9月北大学会のおりに第一回会合を開き、新役員（委員長：長岡、幹事：興地、遠藤、小松原）を選出した。物性研の将来計画委員会の外部委員として3人の委員を選出した（2の第2項参照）。

[議事]

1. 物性専門委員の確認（伊達）

- 空席 2 名分として、 S R 関係者として石井武比古氏。物性研究所長として竹内伸氏に委嘱する事が委員長より提案され、決定した。
- 阪大学長になった金森委員に、物性専門委員が続けられるかどうか尋ね、出来なければ物性百人委員による前回選挙の次点者をくり上げる。

2. 物性研人事選考協議会委員の選挙

鈴木増雄、小林俊一、長岡洋介氏の 3 氏の後任（任期1992年 4 月 1 日～1994年 3 月 31 日）として、無記名投票の結果、興地斐男、遠藤康夫、福山秀敏の 3 氏を選出した。

3. 旧ソ連科学者問題

欧米には旧ソ連、東欧の科学者が流出しているがこの問題を日本として静観していくよいか、出席者の意見が求められた。

- 東欧圏には O D A が使えるはずである。
- 基研の外国人客員は意図した訳ではないが過去 3 年みなソ連から来ている。
- 日本に来られるようにするだけでなく、先方の国内使用分として金を出すのも有意義であり、使い甲斐がある。例えば、旧ソ連中性子装置の完成を援助するなど。

以上のような議論ののち、学術会議でもこの問題を取り上げるように提言することとなった。

4. 物性研将来計画

「キャンパス、大型装置、共同利用、大学院問題」を 4 つの中心課題として出席者の意見を求めた。

- 第 2 駒場キャンパスの場合、先端研、物性研、生産研の 3 つ分のスペースがあるか不明である。
- どの土地もとれないとき東大附置研に留まるべきかどうかも検討すべき。
- 柏は常盤新線ができると便利になるだろうが、それは 2000 年頃のことである。
- 基礎工学院構想（工学部主体）で物性研の大学院教育問題は困難になっている。
- 遠方に移転すると共同利用が不便になるというが、必要な装置があれば不便なところでも出かけて行く。
- 研究会は不便になると考えられるが、便利なところに会場を借りてやることも可能である。
- 物性の共同利用研究者の交流という面が大きく、集まりやすくするよう考慮する必要がある。
分室を持つ等配慮すれば新キャンパスが遠くなてもそれほど不便でない。
- 基研は交流のためには立地条件がよい。柏行きはどうしても交流のために不利という印象を受ける。
- 柏に行くと人材確保に不利にならぬか。
- 人材確保は柏行きとは独立に議論すべき問題である。

- 柏に行くと院生の確保も難しくなるだろう。
- 講義と研究の場所を離すと困る。専用交通機関を運行させるなど必要。
- 物性研の柏移転は柏に基礎工学院ができることが前提である。
- 研究所にとって 10年は長い時間だが教育のためには50年先を考えて柏に移転すべきという意見も東大内部にある。
- 物性研の教育としては共同利用を通したものが主になって欲しい。
- 1990～2000の間に全く新しい物性研を考えてはどうか。昔の物性研の位置づけとは大違いだから、異なるイメージの共同利用研として作ってはどうだろうか。

5. 大型装置

- S Rの現状（石井）

加速器と、測定器が共に平成5年度から走ることを目指して高工研と一緒にR & Dを行っている。前の研究会の計画を一本化し、資金約110億円、エネルギー1.5Gevを目指している。
- （中性子）山田委員より研究計画の現状と提言について資料が配布され、それに基づいた次のような発言があった。

全国的な中性子研究について長期計画は前期の伊達WGの策定により、pulse+steady をひっくり返した組織作りを図ることが必要である。steadyな線源としては原研3号炉を用い、これを国際的研究センターとしたい。このためには科技庁、文部省間の省庁をこえた制度的財政的措置が必要である。
- これに関連して遠藤委員より補足説明があり、学術会議として上記の方向で世論作りを図りたい旨提案があった。

引き続き、提言（省庁の壁を越えた組織作り）の内容について、以下のような発言があった。

 - もっと一般的な問題として提案するならば科学技術会議に出せばよい。
 - 法律改正も含める必要がある。
 - 西播磨のS R問題の場合の反省も必要だ。
 - 個人名でなく、任意団体が提案する形にした方がよい。
 - 複数の研連に要望を出すのがよい。

[時間が不足したので、以下については委員長から内容の説明だけがあった。]

6. 高等学校における物理教育の問題について

高等学校の教科書の内容が平成6年度より変更される。将来の物理学者の養成に関わる問題で我々も無関心ではいられないが、中山正敏氏が世話をとなって次の物理学会でシンポジウムを開かれることをお知らせしておく。

7. 大学及び国立研究所の貧困の問題

これについては構造的欠陥を指摘すべきである。研究者からの強い声をあちこちから出してお

く必要がある。この問題は前期にも議論したが、今後も続ける必要がある。

8. その他

第14期に設置した物理学研究教育調査小委員会（長岡委員長）の報告書が物理学会誌の8月号の別冊に出る。

以 上

研究室だより

中性子回折物性部門

山田 安定

中性子回折物性部門では従来茨城県東海村にある日本原子力研究所の研究用2号炉（JRR-2）に2基の中性子回折・散乱装置を設置し、これを全国共同利用設備として運営して来たが、同研究所の研究用3号原子炉（JRR-3）がビーム実験専用炉として改造されるのに伴い、昭和63年度より中性子回折研究態勢の飛躍的充実を目指してJRR-3を中心とする研究施設設計画を推進している。

全国計画は次の「3本柱」から成る。

- (i) 中性子回折・散乱装置群の設置
- (ii) 全国（国際）共同利用態勢の整備
- (iii) 研究者常駐態勢の確立

それぞれについて簡単に説明する。

(i) 中性子回折・散乱装置群の設置

これについては1988-1993の5ヶ年計画で設備予算がまとめられ、現在順調に各装置が建設されつつあり、完成と同時に順次共同利用に供されている。これらの装置の全体像は図1に示してある。特徴的な点は、中性子導管技術によって原子炉室とは全く独立した実験棟に多くの回折・散乱装置群が設置されていること、特に冷中性子源の設備によって長波長中性子（入～4Å）が利用可能となった点にある。

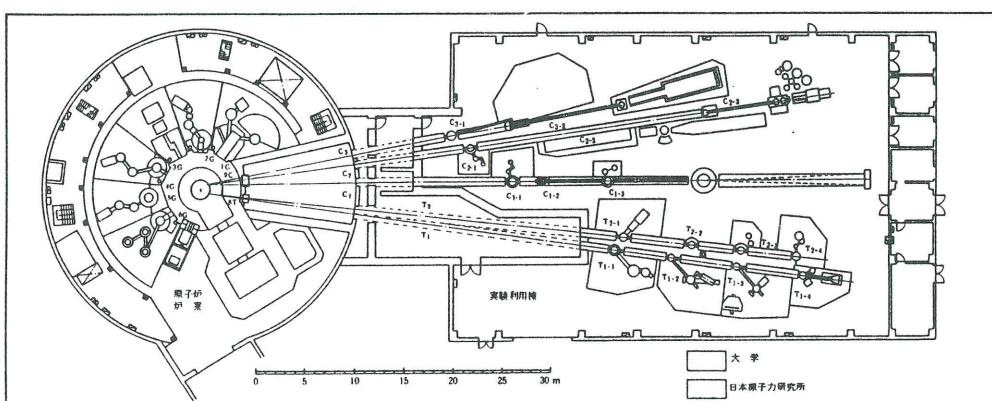


図1 原研新研究炉の中性子散乱装置配置図。大学、原研あわせて約20基が設置され、素粒子物理から生理学に至る広領域の自然科学研究に利用される。

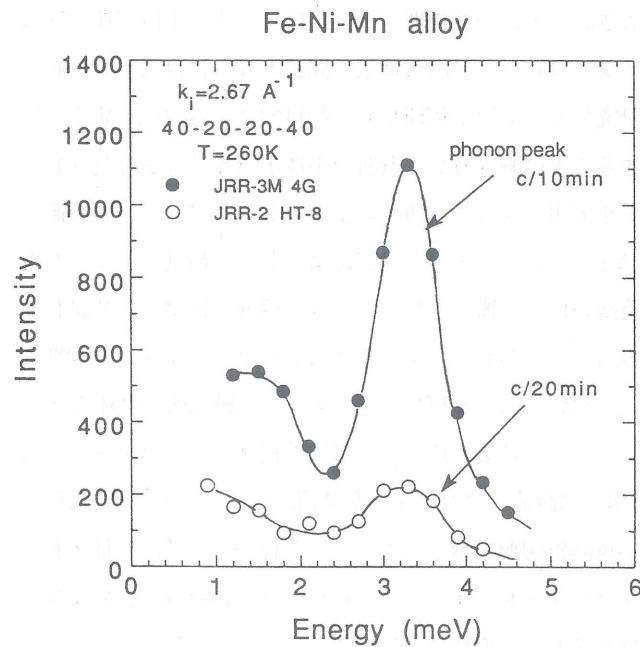


図2 FeNiMn合金のフォノン励起スペクトル同一測定条件で新、旧の装置の性能比較を行ったもの。
 (埼玉大理 元屋清一郎氏提供の資料による)

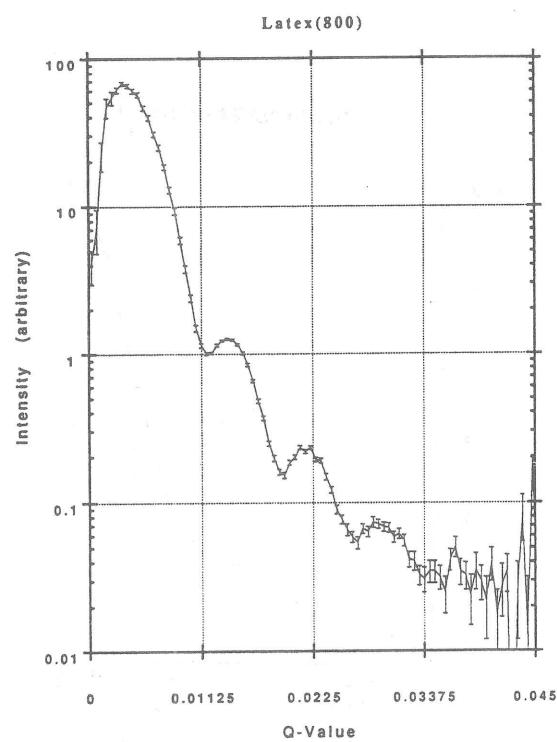


図3 新装置 'SANS-U' (C_{1-2} ビーム孔設置)によるラテックス球(直径790 Å)からの小角散乱图形。測定波長5 Å, 散乱飛柵12m。(物性研 伊藤雄而氏提供)

これによって研究の分野が飛躍的に拡大され、単に物性物理学の分野に止らず、生体関連物質などソフトマテリアルサイエンスの分野、メゾスコピックな高次構造が問題となる材料工学の分野、更に基本粒子としての中性子そのものの研究など、素粒子物理から生物科学に至る巾広い研究分野が拓けて来た。個々の装置について詳述することは避けるが、最新の中性子分光技術を採り入れて高強度、高（エネルギー・運動量）分解能を実現できるよう種々の工夫がなされている。新装置の性能を示すため、ひとつの例として FeNiMn合金中のフォノン励起による非弾性散乱スペクトルを JRR-2 設置の旧分光器と、JRR-3 設置の新分光器（4Gビーム孔、標準3軸型）とで試料条件、測定条件を全く同じにして比較してみる（図2参照）。図から明らかなようにシグナル強度として約10倍となっていることがわかる。これはたとえば米国ブルックヘブン研究所の高中性子炉 HFRに設置された物性研3軸分光器による測定結果と比較してほぼ同程度のパフォーマンスである。又、図3に新設の実験棟冷中性子導管に設置された小角散乱装置（C₁₋₂ビーム孔）を用いた直径 790Åのラテックス分散液からの小角回折图形を示してある。この種の大型装置は従来我が国には設置されておらず、今後は種々のメゾスケールサイエンス、特に生体関連物質を含むソフトマテリアル関係の研究に大きな偉力を発揮するものと期待されている。

その他の各装置についても異なる研究分野からの要請に出来る限り対応できるように相互に守備範囲に特徴をもたせるよう配慮している。

(ii) 全国（国際）共同利用態勢の整備

上記のように大規模な装置群が設置され、特にその利用研究分野が大巾に拡大されたことに伴い、共同利用研究活動も従来より遙かに大規模なものになりつつある。この利用研究活動の推移と予測は図4に示してある。図からわかるように、その研究活動量は現時点で既に JRR-3 利用以前の3倍に達しており（課題提案数では約5倍）平常年度（平成5年度）に達する迄には更に倍増が見込まれる。

このような増加は利用形態としては殆んど質的な変化であり、これに対処するため、原研施設に関する大学共同利用の窓口である東大原子力総合センターとの緊密な連絡のもとに、種々の予算的、制度的措置を講

研究活動力見込みの拡大

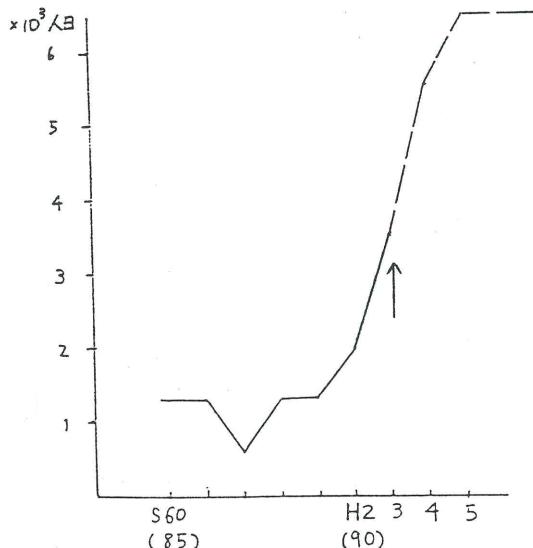


図4 中性子散乱に関する全国共同利用研究活動の推移と予測。

じて来た。現時点でこの両面ともまだ充分とは云い難いが徐々に態勢が整いつつある、といつてよい。制度的には関係する全国共同利用窓口機関（原総センター、東北大金属材料研究所、物性研究所）の間の密接な連絡により、実質一括公募、一括採択審議により窓口の違いによる採択基準の相違など不合理なことがないように配慮している。

特に物性研究所として留意すべき点は、新しい利用態勢のもとでは、研究の分野が物性研究の枠を全く超えるものとなっている点である。この点は本研究所が全国共同利用研として担っている役割と責任に関連しているわけであり、高エネルギー研究所のパルス中性子施設と相並んで我が国の中性子散乱研究全般を推進する立場にある、という点に留意している。

(iii) 常駐態勢

設置されつつある多数の装置群を有効に利用して成果をあげるために最も必要なことは、各装置に常時はりついて、それらの装置を維持管理し、更にその改良、性能アップを図り、又同時に多数の共同利用者の指導、助言にあたるスタッフの存在であることは云う迄もない。これなくしては折角の新鋭装置群も「佛作って魂入れず」となってしまう。

物性研究所では、この目的のために研究棟、共同利用宿舎を含む「中性子回折物性研究施設」を原子力研究所に隣接した土地に建設することを計画している。これが実現すれば上記の「3本柱」が完成することとなる。

この3本柱によってJRR-3を利用する中性子回折研究は多くの共同利用研究者が意欲的に、かつ楽しんで研究に取組むことの出来る、魅力ある研究場所となると考えられる。当部門では現在このような「研究施設」を建設し、これを国内のみならず国際的な利用に供することによって世界の中で重要な中性子回折・散乱研究センターに迄飛躍することを目指している。

物性研究所談話会

日 時 1992年4月3日（金）午後4時～5時

場 所 物性研究所 旧棟1階 講義室

講 師 Prof. Lars Hedin

(所属) (Department of Theoretical Physics, Lund University, Sweden)

題 目 The Role of the Blue Electron in Electron Spectroscopies

要 旨 :

By a blue electron I understand an electron which in a specific sense is regarded as distinguishable from the other electrons among which it moves. This means some violation of the Pauli principle, and effects beyond Hartree-Fock are accounted for only in a quasi-classical manner. The omitted terms vanish when the energy of the blue electron increases, but should be small down to the order of the Fermi energy above threshold. Identifying the blue electron with the "active" electron we obtain simple and physically transparent expressions for yields in different electron spectroscopies like photoemission, EXAFS and electron scattering. The expressions for the yields contain "optical potentials" which damp the electron propagation, and "fluctuation potentials" which determine the inelastic scattering. The fluctuation potentials also appear in the expressions for the optical potentials together with one-electron energies and wavefunctions. The blue electron approach leads to an optical potential which is essentially the same as in the "GW-approximation". The latter has been very successful in predicting bandstructures for a large of metals, semiconductors and insulators.

日 時 1992年4月20日（月）午後4時～5時

場 所 物性研究所 旧棟1階 講義室

講 師 Prof. J. Zittartz

(所属) (Koln大学理論物理学研究所)

題 目 Spin Quantum Antiferromagnets in One Dimension:

Exact Groundstate and Groundstate Properties

要 旨 :

We have found the exact groundstate for a large class of spin 1 anisotropic quantum antiferromagnets on a linear chain. The groundstate is given as a matrix product of

individual site-contributions. All relevant groundstate properties are calculated. The groundstate is unique, it has a finite gap to the excitations, and correlations decay exponentially. Thus the models have all the properties described by Haldane to be generic for certain quantum antiferromagnets with integral spin.

物性研ニュース

東京大学物性研究所の助手公募の通知

下記により助手の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名等及び公募人員数

新物質開発部門武居研究室 助手 1名

2. 研究内容

特異な物性を示す新物質の開発に興味を持ち、主として武居所員と協力して、無機化学的手法により合成・単結晶育成を行いつつ、構造解析や物性研究に意欲的に取り組める人を希望する。

3. 応募資格

修士課程修了、またはこれと同等以上の能力をもつ人。

4. 任期

5年以内を原則とする。

5. 公募締切

平成4年6月30日（火）必着

6. 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

7. 提出書類

(イ) 推薦の場合

- 推薦書（健康に関する所見を含む）
- 履歴書（略歴で結構です）
- 業績リスト（必ずタイプすること）
- 論文別刷

(ロ) 応募の場合

- 履歴書
- 業績リスト（必ずタイプすること）
- 論文別刷
- 所属の長または指導教官等の本人についての意見書（宛先へ直送のこと）
- 健康診断書

8. 宛先

〒106 東京都港区六本木 7 丁目22番 1号

東京大学物性研究所 総務課人事掛

電話 03 (3478) 6811 内線 5021, 5022

9. 注意事項

新物質開発部門武居研究室助手応募書類在中、又は意見書在中の旨を朱書きし、書留で郵送のこ
と。

10. 選考方法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留
いたします。

平成 4 年 3 月 26 日

東京大学物性研究所

竹 内 伸

東京大学物性研究所における大学院修士 及び博士課程進学ガイダンスのお知らせ

(物理学・化学・地球物理学・鉱物学・物理工学各専攻)

物性研究所における大学院教官の研究室に進学を希望される方のための説明会を下記要領で開きますので、関心をお持ちの方はお集まりください。

記

日 時： 平成4年6月25日（木）12：45～

集合場所： 東京都港区六本木7-22-1

東京大学物性研究所内

Q棟講義室（Q棟1階）

行事予定： 12：45～13：15 物性研紹介ビデオ映写

13：15～13：40 概要説明

13：40～16：00 研究室見学

研究室見学終了後、教官との懇談会を予定しています。

奮ってご参加ください。

物性研究所に関する資料－物性研究所パンフレット－を希望される方々には予めお送りしますので、その旨文書にて物性研究所庶務掛にお申し出ください。

住 所： 〒106 東京都港区六本木7-22-1

電 話： (03)-3478-6811 内線 5012, 5013

物性研究所物性科学入門講座

——光と物性——

講 義： 1992年6月26日（金）13:00～18:00

小 谷 章 雄 内殻電子の分光学

—光物性研究の新しい展開—

高 橋 敏 男 シンクロトロン放射光とその利用

松 岡 正 浩 レーザーの開く光学の世界

(程度は学部3年生以上)

場 所： 東京大学物性研究所講義室

(物性研究所A棟の向いの建物（Q棟）1階)

地下鉄日比谷線「六本木」または千代田線「乃木坂」より徒歩5分

聴講料： 無 料

問い合わせ先： 電話 (03)-3478-6811 内線 5012, 5013

人 事 異 動

1. 研究部

(退職・転出)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
中性子回折物性部門	教授 山田 安定	4. 4. 1	3.3.31限り停年退職
凝縮系物性部門	" 森垣 和夫	"	"
理 論 部 門	" 福山 秀敏	"	理学部教授へ
極限物性部門 極限レーザー	助手 久我 隆弘	"	教養学部助教授へ
理 論 部 門	" 河野 浩	"	理学部助手へ

(休職)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
新物質開発部門	助手 竹屋 浩幸	4. 4. 1	休職 (5.3.31まで)

(転入・採用)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
極限物性部門 超低温物性	助教授 河野 公俊	4. 4. 1	筑波大学助教授物理学系より
理 論 部 門	" 常行 真司	"	理学部助手より
極限物性部門 表面物性	助手 大川 祐司	"	採用
極限物性部門 極限レーザー	技官 鍋川 康夫	"	"
極限物性部門 表面物性	" 飯盛 拓嗣	"	"

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
極限物性部門 超 高 壓	技官 内田雄幸	4. 4. 1	採用
附属軌道放射物性 研 究 施 設	" 工藤博文	"	"
極限物性部門 極限レーザー	助 手 徳永英司	4. 5. 1	"

(昇任)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
極限物性部門 超 強 磁 場	助 手 東堂栄	4. 4. 1	教務職員より

(併任等)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
(客員部門) 極限物性第二部門	教 授 山口益弘	4. 4. 1	本務：横浜国立大学教授工 学部 (4. 9. 30まで)
"	助教授 青木貞雄	"	本務：筑波大学助教授物理 工学系 (4. 9. 30まで)
" 固 体 物 性 部 門	" 伊澤正陽	"	本務：高エネルギー物理学 研究所助教授 (4. 9. 30まで)
"	" 梶谷剛	"	本務：東北大学助教授金属 材料研究所 (4. 9. 30まで)

1. 事務部

(退職・転出)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
経理課	経理課長 園田 守	4. 3. 31	定年退職
総務課	庶務主任(人事掛長) 佐藤國雄	4. 4. 1	農学部事務長補佐へ
"	庶務掛長 野田恭二	"	庶務部人事課専門職員(安全管理担当)・能率掛長併任へ
経理課	用度掛長 堀辺正章	"	工学部経理課契約掛長へ
"	施設掛長 高尾廣	"	農学部施設掛長へ
"	司計掛主任 早川敦夫	"	国立特殊教育総合研究所運営部研修情報課電子計算機係長へ
総務課	図書掛 池田淑子	"	工学部精密機械工学科図書室へ
経理課	用度掛 小田嶋輝明	"	低温センター事務室へ
総務課	人事掛 渡邊雅弘	4. 4. 10	東京国立近代美術館庶務課 総務係へ

(転入・採用)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
経理課	経理課長 田中勇	4. 4. 1	電気通信大学附属図書館事務長より
総務課	庶務主任(庶務掛長) 安岡邦彦	"	経済学部庶務掛長より
"	人事掛長 伊藤純子	"	工学部給務課厚生掛長より
経理課	用度掛長 浦邦夫	"	国立天文台管理部会計課管財係長より

(転入・採用)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
経理課	施設掛長 村田和男	4. 4. 1	医学部管理掛施設主任より
総務課	図書掛 林玲子	〃	附属図書館情報管理課和書目録情報掛より
経理課	用度掛 小檜山克則	〃	国立磐梯青年の家庶務課より
総務課	庶務掛 本槁秀夫	〃	採用

(昇任)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
総務課	人事掛主任 高橋博行	4. 4. 1	人事掛より
経理課	施設掛主任 伊藤正秀	〃	施設掛より

(配置換)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
総務課	人事掛 萩原偉彦	4. 4. 1	経理掛より
経理課	経理掛 天野和子	〃	庶務掛より

平成4年度 物性研究所協議会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
東北大(理)	教 授	遠 藤 康 夫	H 2.9.1 ~ H 4.8.31	物 研 連
学習院大(理)	"	川 路 紳 治(再)	"	"
阪 大(理)	"	櫛 田 孝 司	"	"
東北大(金研)	"	立 木 昌	"	"
阪 大(理)	"	都 福 仁	"	"
京 大(理)	"	廣 田 裕(再)	"	化 研 連
東北大(金研)	"	鈴 木 謙 爾	"	東北大・金研
高エネルギー 物理学研究所	"	岩 崎 博(再)	"	高 工 研
東 大(工)	"	国 府 田 隆 夫(再)	"	東 大 · 工
東 大(理)	"	鈴 木 增 雄	"	東 大 · 理
"	"	井 野 正 三(再)	"	"
"	"	近 藤 保(再)	"	"
分子科学研究所	"	諸 熊 奎 治	"	分 子 研
京 大(基研)	"	長 岡 洋 介(再)	"	京 大 · 基 研
東大(物性研)	"	村 田 好 正	"	所員会・所内委員
"	"	安 岡 弘 志	"	"
"	"	松 岡 正 浩	H 3.7.9 ~ H 4.8.31	"
"	"	小 谷 章 雄	H 4.4.1 ~ H 4.8.31	"
東 大(工)	学部長	岡 村 弘 之		官 職 指 定 委 員
" (理)	"	久 城 育 夫		"
" (核研)	所 長	山 崎 敏 光		"
" (事務局)	局 長	佐 藤 次 郎		"

平成4年度 共同利用施設専門委員会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
東 大 (理)	教 授	岩 澤 康 裕	H. 3. 4. 1~H. 5. 3. 31	化 研 連
阪 大 (理)	"	小 林 雅 通	"	"
高エネルギー物理学研究所	"	池 田 宏 信	"	物 研 連
東工大 (理)	"	永 田 一 清	"	"
名 大 (理)	"	佐 藤 正 俊	"	"
筑波大 (物理学系)	"	高 山 一	"	"
信州大 (教養)	助教授	武 田 三 男	"	"
広 島 大 (理)	教 授	藤 田 敏 三	"	"
阪 大 (理)	"	都 福 仁	"	"
高エネルギー物理学研究所	"	宮 原 恒 昇	"	所 員 会
分子科学研究所	"	花 崎 一 郎	"	"
京 大 (理)	"	小 菅 皓 二	H. 4. 4. 1~H. 6. 3. 31	化 研 連
東北大 (理)	"	小 松 原 武 美	"	物 研 連
山形大 (理)	助教授	吉 成 武 久	"	"
広 島 大 (理)	教 授	大 林 康 二	"	"
東京理科大 (理)	"	津 田 惟 雄	"	"
神 戸 大 (理)	"	本 河 光 博	"	"
青山学院大 (理工)	"	秋 光 純	"	"
阪 大 (理)	"	櫛 田 孝 司	"	"
阪 大 (基礎工)	"	張 紀 久 夫	"	"
東 大 (理)	助教授	十 倉 好 紀	"	所 員 会

平成 4 年度 軌道放射物性研究施設運営委員会委員名簿

	所 属	職 名	氏 名	任 期	備考
委員長	物性研究所	教 授	石井 武比古	4. 1. 1 ~ 5. 12. 31	再任
委 員	"	"	毛利 信男	"	再任
"	"	"	小谷 章雄	"	再任
"	"	"	神谷 幸秀	"	
"	"	助教授	柿崎 明人	"	再任
"	"	"	辛 壇	"	再任
"	東 大(核研)	教 授	山田 作衛	"	再任
"	東 北 大(理)	"	佐藤 繁	"	再任
"	東 大(理)	助教授	藤森 淳	"	
"	阪 大(基礎工)	教 授	菅 滋正	"	
"	大阪府立大(工)	"	会田 修	"	再任
"	東 大(理)	"	太田 俊明	"	再任
"	高工ネルギー 物理研究所	"	岩崎 博	"	再任
"	分子科学研究所	"	薬師 久彌	4. 4. 1 ~ 5. 12. 31	

平成 4 年度 外来研究員等委員会委員名簿

	氏 名	任 期	備 考
委員長	三浦 登	H. 3. 4. 1 ~ H. 5. 3. 31	委員長任期 H. 4. 4. 1 ~ H. 5. 3. 31
所内委員	甲元 真人	"	
"	武居 文彦	H. 4. 4. 1 ~ H. 6. 3. 31	
"	久保田 実	"	
所外委員	佐藤 正俊	H. 3. 4. 1 ~ H. 5. 3. 31	名 大(理)
"	藤田 敏三	"	広島 大(理)
"	秋光 純	H. 4. 4. 1 ~ H. 6. 3. 31	青山学院大(理工)
"	張 紀久夫	"	阪大(基礎工)

平成 4 年度 人事選考協議会委員名簿

(物研連推薦)

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
筑波大(物理学系)	教 授	高山 一	3.4.1~ 5.3.31	
東 北 大(理)	"	小松原 武 美	"	
阪 大(工)	"	興 地 斐 男	4.4.1~ 6.3.31	
東 北 大(理)	"	遠 藤 康 夫	"	
東 大(理)	"	福 山 秀 敏	"	

平成 4 年度 中性子回折装置共同利用運営委員会委員名簿

	所 属	職 名	氏 名	委員	任 期	備 考
委員長	物 性 研 究 所	教 授	藤 井 保 彦	1号	4.4.1~ 6.3.31	
委 員	"	助教授	伊 藤 雄 而	"	"	
"	"	"	吉 澤 英 樹	"	"	
"	"	"	加 倉 井 和 久	"	"	
"	"	教 授	毛 利 信 男	5号	"	
"	"	"	村 田 好 正	"	"	
"	原子力研究総合センター	助教授	伊 藤 泰 男	2号	"	
"	高エネルギー物理学研究所	教 授	渡 辺 昇	3号	"	pulse 委員
"	京 都 大 学(原子炉)	"	山 岡 仁 史	4号	"	
"	東 北 大 学(理)	"	遠 藤 康 夫	5号	"	pulse 委員
"	東 北 大 学(金研)	"	山 口 泰 男	"	"	
"	名 古 屋 大 学(工)	"	野 田 一 郎	"	"	pulse 委員
"	明 治 大 学(理工)	"	三 井 利 夫	"	"	"
"	九 州 大 学(理)	"	川 崎 恭 治	"	"	
"	日本原子力研究所 (東海研究所)	室 長	船 橋 達	6号	"	

平成4年度 前期 短期研究会一覧

研究会名	開催期日	参 加 予定人員	提案者
短周期半導体超格子の物性	5月18日 5月19日 (2日間) 10:00~	80名	○上村 洋 (東京理大・理) 浜口智尋 (阪大・工) 安藤恒也 (東大・物性研) 三浦 登 (東大・物性研)
物質科学の将来—物性物理とその隣接分野	6月 9日 6月10日 (2日間) 13:00~	60名	○寺倉清之 (東大・物性研) 福山秀敏 (東大・理) 三浦 登 (東大・物性研) 村田好正 (東大・物性研) 八木健彦 (東大・物性研)
パーコレーションの理論と応用	6月15日 6月17日 (3日間) 13:00~	50名	○小田垣 孝 (京都工織大・工芸) 宮島佐介 (中部大・工) 香取真理 (東大・理)

平成4年度 前期 外来研究員一覧

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
北 大 (理) 助 教 授	榎 原 俊 郎	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (6泊 7日・2回)	f電子系のメタ磁性と磁歪	後 藤
京 大 (工) 教 授	中 辻 博	5/22 ~ 5/23 7/ 3 ~ 7/ 4	表面励起状態と反応性の研究	村 田
京 大 (理) 助 教 授	西 嶋 光 昭	5/18 ~ 5/19 9/18 ~ 9/19	金属表面に吸着した分子のダイナミックス	"
阪 大 (工) 助 教 授	上 田 一 之	6/ 1 ~ 6/ 2 9/ 7 ~ 9/ 8	表面吸着種の電子励起に伴う脱離の研究	"
東京都立大 (理) 助 教 授	阿知波 洋 次	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	柔粘性結晶表面の研究	"
職業訓練大 助 教 授	窪 田 政 一	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	表面における動的過程の研究	"
金沢大 (理) 助 教 授	鈴 木 治 彦	5/10 ~ 5/16 7/ 5 ~ 7/11	金属中の核スピン秩序	石 本
大阪市立大 (理) 講 師	畠 徹	7/13 ~ 7/18	強磁場中における超流動 ³ He	"
北教大 (教 育) 教 授	高 柳 滋	7/25 ~ 8/10	低温高圧下における比熱測定装置の開発	毛 利
東邦大 (理) 教 授	小 林 速 男	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	分子性導体の合成と評価	加 藤

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
北大 (工) 助教授	毛利 哲夫	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (2泊 3日・2回)	合金状態図の第一原理計算	寺倉
九大 (教養) 教授	中山 正敏	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (2泊 3日・2回)	固体表面の光電子スペクトルの計算	"
奈良県立医大 助教授	赤井 久純	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (2泊 3日・2回)	電子論と分子動力学の結合	"
姫路工大 (理) 助教授	石井 靖	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (2泊 3日・2回)	強相関系の電子状態	"
金属材料技術研究所 主任研究員	小口 多美夫	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1日)	電子状態計算手法の開発	寺倉
東北大 (理) 助教授	萱沼 洋輔	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (2泊 3日・2回)	内殻励起二次量子過程の理論	小谷
東北大 (理) 教授	佐藤 繁	7/3 ~ 7/5 9/14 ~ 9/16	放射光固体分光システムの開発研究	SOR 石井
広島大 (理) 教授	谷口 雅樹	7/3 ~ 7/5 9/14 ~ 9/16	放射光固体分光研究と新リング計画 設計研究	"
東大 (核研) 助手	武藤 正文	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1日)	新型光源の設計	SOR 神谷
高工研 助教授	伊澤 正陽	5/18 ~ 5/19 7/13 ~ 7/14	シングルモード加速空洞の開発に 関する研究	"
高工研 助教授	桂 共太郎	5/18 ~ 5/19 7/13 ~ 7/14	高速ビーム位置検出システムの開発 に関する研究	"

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
高工研 助 手	家入孝夫	5/17 ~ 5/19 7/19 ~ 7/21	ビーム測定システムの開発研究	S O R 神 谷
高工研 助 手	中村典雄	5/18 ~ 5/19 7/13 ~ 7/14	高輝度放射光リングにおけるビーム 不安定性の研究	"
理化学研究所 研究員	田中均	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	直線及び円偏振アンジュレータの電 子ビームへの影響についての研究	"
東北大 (理) 助教授	鈴木章二	5/18 ~ 5/19 7/13 ~ 7/14	スピニ偏極低速電子線回折実験	S O R 柿崎
阪大 (基礎工) 教 授	菅滋正	5/18 ~ 5/19 7/13 ~ 7/14	"	"
阪大 (基礎工) 助教授	大門寛	5/18 ~ 5/19 7/13 ~ 7/14	"	"
高工研 教 授	前沢秀樹	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (2日)	高輝度放射光を利用した高分解能分 光光学系の設計	"
高工研 教 授	宮原恒昱	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (2日)	"	"
高工研 助教授	柳下明	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (2日)	高輝度放射光を利用した高分解能分 光光学系の設計	"
東北大 (科研) 助教授	服部武志	5/11 ~ 5/16 7/20 ~ 7/25	ビームライン19Bの整備	S O R 辛

留学研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 北 大 (理) D. C. 3	小笠原 春 彦	4/1 ~ 9/30	希土類化合物の高エネルギー分光の理論	小 谷
東 北 大 (理) D. C. 3	清 野 泰 宏	4/1 ~ 9/30	遷移金属化合物の高エネルギー分光理論	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 北 大 (理) 教 授	後 藤 武 生	5/4 ~ 5/9	半導体微結晶における励起子の強磁場効果	三 浦
東 北 大 (理) M. C. 2	田 中 仁	5/4 ~ 5/9	"	"
筑 波 大 (物質工学) 教 授	滝 田 宏 樹	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (日帰り 2回)	ホットウォール法によるIV-VI族半導体の作製とその光物性	"
筑 波 大 (物質工学) 講 師	黒 田 真 司	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (日帰り 2回)	"	"
埼 玉 大 (工) 教 授	山 田 興 治	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週 2 日)	半導体内ホットキャリアの強磁場物性	"
埼 玉 大 (工) 助 手	鎌 田 憲 彦	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週 2 日)	"	"
埼 玉 大 (理工学) D. C. 2	二 川 英 樹	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週 2 日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
埼玉大 (理工学) M. C. 2	小綿 明	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週2日)	半導体内ホットキャリアの強磁場物性	三浦
東 大 (教養) 教 授	鹿児島 誠一	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週2日)	有機(超)伝導体の強磁場物性	"
東 大 (教養) 助 手	長田俊人	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週2日)	低次元電子系の強磁場物性	"
東 大 (先端研) 教 授	榎裕之	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (月3日)	強磁場中の量子構造の電子状態に関する研究	"
東 大 (先端研) 助 手	永宗靖	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (月3日)	"	"
東 大 (生研) 助 手	松末俊夫	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (月3日)	"	"
東 大 (生研) 技 官	野田武司	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (月3日)	"	"
東 大 (工) D. C. 1	野口裕泰	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (月3日)	"	"
山梨大 (教育) 助 手	渡辺勝儀	7/13 ~ 7/16	超強磁場下におけるBiI ₃ 薄膜結晶の バンド端励起子の磁気光効果	"
姫路工大 (理) 助 教 授	嶽山正二郎	5/10 ~ 5/15	半磁性半導体の強磁場光物性	"
成蹊大 (工) 教 授	森田眞	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	色素J集合体の強磁場光物性	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
成蹊大 (工) M. C. 1	藤田 巧	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1 日)	色素 J 集合体の強磁場光物性	三 浦
化学技術研 究員	横井 裕之	4/ 1 ~ 4/30 5/18 ~ 6/20 9/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 3 日)	C ₆₀ 薄膜の超強磁場下遠赤外物性の 研究	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	中尾 公一	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1 日)	パルス超強磁場による高温超電導体 のB _{c2} 測定	"
北大 (理) 助手	網塚 浩	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (3泊 4日・1回)	重い電子系の強磁場磁歪測定	後 藤
東北大 (工) D. C. 3	蔣 德煊	5/25 ~ 5/29	Fe-La-Al系アモルファス合金の磁性 の圧力効果	"
東北大 (工) D. C. 2	村田 和広	5/18 ~ 5/22	ラーベス相化合物の超強磁場物性	"
東北大 (工) D. C. 1	服部 靖匡	5/25 ~ 5/29	希土類アモルファス合金の磁性	"
東北大 (工) M. C. 2	松永 温	5/25 ~ 5/29	Fe系アモルファス合金の磁気弾性効 果	"
東北大 (工) M. C. 2	大橋 伸夫	5/18 ~ 5/22	20面体クラスターからなるFe系合 金の磁性	"
東北大 (金研) 助手	加藤 宏朗	7/13 ~ 7/16	R ₂ Fe ₁₄ B(R:重希土類元素) 単結晶に おける超強磁場中での逐次相転位	"
お茶の水女子大 (理) 教 授	伊藤 厚子	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (14日)	絶縁体スピングラス系の磁化測定	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
お茶の水女子大 (理) M. C. 2	岩 井 圭 子	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (14日)	絶縁体スピングラス系の磁化測定	後 藤
お茶の水女子大 (理) M. C. 2	大 山 千由紀	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (14日)	"	"
お茶の水女子大 (理) M. C. 1	東 方 綾	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (14日)	"	"
お茶の水女子大 (理) M. C. 1	深 谷 敦 子	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (14日)	"	"
横浜国立大 (工) M. C. 2	菅 谷 文 孝	4/ 1 ~ 4/14 6/ 1 ~ 6/14 8/ 1 ~ 8/14	希土類ーコバルト化合物および水素化物単結晶の磁性の研究	"
横浜国立大 (工) M. C. 2	高 畠 聰	4/ 1 ~ 4/14 6/ 1 ~ 6/14 8/ 1 ~ 8/14	"	"
福 井 大 (工) 助 教 授	網 代 芳 民	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (3泊4日・1回)	低次元格子磁性体における磁場中相転移	"
福 井 大 (理) M. C. 2	栗 山 英 明	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (3泊4日・1回)	"	"
福 井 大 (工) M. C. 1	浅 野 貴 行	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (3泊4日・1回)	"	"
東京医大 講 師	大 岩 潔	7/27 ~ 7/30 8/17 ~ 8/20	ラーベス相金属間化合物のメタ磁性転移と磁歪	"
京 大 (理) 教 授	石 黒 武 彦	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (2泊3日・1回)	超格子LB膜のブリュアン散乱	末 元

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
京 大 (理) M. C. 2	竹 内 繁 樹	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (2泊 3日・1回)	超格子LB膜のブリュアン散乱	末 元
東 北 大 (金 研) 助 手	王 向 東	6/ 8 ~ 6/12	FI-STMによるシリコン表面での塩素吸着の研究	村 田
宇都宮大 (教 養) 助 教 授	江 川 千佳司	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (日帰り 2回)	超格子表面構造とその反応性に関する研究	"
東京学芸大 (教 育) 助 教 授	並 河 一 道	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 3 日)	低エネルギーモット散乱による電子スピン解析器の試作	"
山 梨 大 (教 育) 教 授	川 村 隆 明	6/ 8 ~ 6/13	多重散乱法による表面構造の決定	"
鳥 取 大 (教 養) 助 教 授	石 井 晃	6/ 1 ~ 6/ 6	ポジトロニウム形成を利用した表面電子状態測定法	"
北 大 (理) 教 授	魚 崎 浩 平	7/20 ~ 7/25	単結晶上に配列した有機单分子層の電気化学的挙動	田 中
北 大 (理) 助 手	近 藤 敏 啓	7/20 ~ 7/25	"	"
北 大 (理) 教 授	山 岸 眞 彦	8/ 1 ~ 8/ 5	LB膜基盤のXPS による表面分析	"
筑 波 大 (物質工学) 講 師	中 村 潤 児	7/13 ~ 7/25	Ni单結晶表面上の炭素の微視的反応挙動	"
岡 山 大 (自然化学) 助 手	黒 田 泰 重	6/29 ~ 7/18	酸化亜鉛表面における水の二次元凝縮	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東北大 (金研) 助教授	榎詰富博	6/15～6/19	低温STMの開発シリコン表面構造の研究	小森
東北大 (理) D.C.3	鹽久実	6/15～6/19	"	"
東北大 (金研) 特別研究員	徐宏偉	5/18～5/22 6/15～6/19 7/13～7/17	"	"
東北大 (金研) 特別研究員	全瞳烈	5/18～5/22 6/15～6/19 7/13～7/17	"	"
北大 (工) 助手	丹田聰	4/20～4/30	2次元系の超伝導-絶縁体転位	石本
東大 (教養) 助教授	和田信雄	4/1～9/30 上記期間中 (週3日)	Restricted Geometry 中He等の研究	"
金沢大 (理) M.C.2	小池良浩	6/15～6/21	S _c 金属の核スピン・オーダーの研究	"
金沢大 (理) M.C.2	田所三徳	6/15～6/21	"	"
京大 (理) 教授	石黒武彦	4/1～9/30 上記期間中 (2泊3日・1回)	金属性ポリアセチレンの超低温下電気伝導	"
京大 (理) D.C.2	金子浩	4/1～9/30 上記期間中 (2泊3日・1回)	"	"
北大 (理) 教授	三本木孝	4/1～9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	層状化合物の高圧下での相転位	毛利

般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
北 大 (理) D. C. 1	長 沢 光 晴	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (6泊 7日・1回)	層状化合物の高圧下での相転位	毛 利
北 大 (理) M. C. 1	青 木 康 祐	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (6泊 7日・1回)	"	"
室蘭工大 (工) 教 授	永 田 正 一	7/20 ~ 7/25	CuV ₂ S ₄ , CuRh ₂ S ₄ の常圧下及び高圧下 での低温比熱	"
室蘭工大 (工) M. C. 2	萩 城 貴 繼	7/20 ~ 7/25	"	"
室蘭工大 (工) M. C. 2	関 善 隆	7/20 ~ 7/25	"	"
東 北 大 (理) 助 教 授	笠 谷 光 男	6/ 1 ~ 6/ 6	高圧下に於ける価数揺動状態出現の 研究	"
東 北 大 (理) M. C. 2	鈴 木 裕 之	6/ 1 ~ 6/ 6	"	"
東 北 大 (教 養) 助 教 授	佐 藤 正 樹	6/ 22~ 6/27	NiAs型化合物の高圧下の構造解析	"
東 大 (理) 助 教 授	十 倉 好 紀	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 2 日)	Ti酸化物結晶の高圧物性	"
東 大 (理) M. C. 2	勝 藤 拓 郎	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 2 日)	"	"
京 大 (理) 助 手	小 島 憲 道	7/27 ~ 8/ 1	低温高圧下におけるAu混合原子価錯 体Cs ₂ Au ₂ I ₆ の金属相の伝導物性	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
九州工大 (情報工学) 教 授	對 馬 國 郎	7/15 ~ 7/25	ビスマス系酸化物超伝導体単結晶評価	毛 利
九州工大 (情報工学) 助 手	渡 辺 直 寛	7/15 ~ 7/25	"	"
熊本大 (教 養) 講 師	上 床 美 也	7/19 ~ 7/26	YbCu ₂ Si ₂ 単結晶の高圧下での電気抵抗測定	"
熊本大 (理) M. C. 1	西 村 和 高	7/19 ~ 7/26	"	"
北海道東海大 教 授	四 方 周 輔	7/21 ~ 7/25	高圧下における酸化物超伝導体の輸送現象	"
北海道東海大 助 教 授	印 東 道 子	5/15 ~ 5/19	メスバウアー分光法による先史土器技術の復原	"
東北学院大 (工) 教 授	鹿 又 武	6/ 1 ~ 6/ 7	鉄族金属間化合物の圧縮率測定	"
東北学院大 (工) M. C. 2	森 信 一	6/ 1 ~ 6/ 7	"	"
青山学院大 (理 工) 教 授	秋 光 純	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週2日)	高圧下による新物質の探索	"
分子研 助 手	岡 本 博	5/18 ~ 5/23	低温高圧下における一次元ハロゲン架橋金属錯体の伝導物性	"
分子研 助 手	北 川 宏	5/18 ~ 5/23	"	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
電 総 研 研究 員	伊 賀 文 俊	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (3週間)	希土類近藤物質及び遷移金属化合物の圧力効果	毛 利
国際超電導産業技術研究センター 超電導工学研 究 員	小 菅 道 和	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週2日)	高圧下の酸化物超電導体の研究	"
国際超電導産業技術研究センター 超電導工学研 究 員	渡 辺 宣 朗	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週2日)	"	"
国際超電導産業技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	安 達 成 司	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	銅酸化物の超高圧合成	"
国際超電導産業技術研究センター 超電導工学研 嘱託研究員	桜 井 健	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	"	"
室蘭工大 (工) 教 授	城 谷 一 民	8/10 ~ 8/20	金属リン化物超伝導体の合成と電子物性	八 木
室蘭工大 (工) M. C. 1	安 達 隆 文	8/10 ~ 8/20	"	"
お茶の水女子大 (理) 助 教 授	浜 谷 望	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週2日)	MnF ₂ の圧力誘起相転移-X線による前駆現象の検出	"
名 大 (理) D. C. 2	近 藤 忠	6/ 2 ~ 6/13	焼結ダイアモンドアンビルによる高圧・高温実験	"
岡 山 大 (地球内部 研究センター) 教 授	伊 藤 英 司	5/31 ~ 6/ 7	地球マントル最下部構成物質の探査	"
愛 媛 大 (理) 助 教 授	入 船 徹 男	8/20 ~ 8/26	超高圧下でのケイ酸塩多成分系相平衡	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
愛媛大 (理) M. C. 2	金本征代	8/1 ~ 8/10	超高压下でのケイ酸塩多成分系相平衡	八木
学習院大 (理) 教 授	赤荻正樹	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	鉄-マグネシウム珪酸塩の高温高压合成	"
学習院大 (理) 助 手	鈴木敏弘	4/20 ~ 4/30	高圧高温下における金属とケイ酸塩の反応	"
中央大 (理工) 教 授	深井有	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	水素合金の高圧合成	"
岐阜大 (工) 助 教 授	松下栄子	7/16 ~ 7/18	誘電体の電子物性に関する研究	藤井
自治医大 教 授	青野修	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (1泊2日・1回)	膜の諸性質の理論	伊藤
東 大 (工) 助 教 授	前田康二	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	非金属結晶中の拡張欠陥に関する物性	竹内
東 大 (工) 講 師	木村薫	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	合金準結晶の電気伝導に関する研究	"
東 大 (工) D. C. 2	早稲田篤	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (月2日)	準結晶合金の構造と物性に関する研究	"
島根大 (教 育) 教 授	神志那良雄	7/16 ~ 7/18	準結晶の構造と物性	"
東京理科大 (理) 教 授	津田惟雄	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (月1日)	高温超伝導のトンネル効果	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東京理科大 (理) 助 手	嶋 田 大 介	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1 日)	高温超伝導のトンネル効果	竹 内
東京理科大 (理) M. C. 1	沼 崎 宣 子	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1 日)	"	"
東京理科大 (理) 教 授	津 田 惟 雄	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 1 日)	準結晶の物性	"
東京理科大 (理) M. C. 2	秋 山 博 文	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 5 日)	"	"
東京理科大 (理) M. C. 2	越 川 尚 清	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 5 日)	"	"
青山学院大 (理 工) 助 手	塙 谷 百 合	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1 日)	置換型不規則二元合金中の電子状態 の理論計算	"
東北大 (金 研) 助 手	高 梨 弘 育	6/ 1 ~ 6/ 5	Co/Cu 系人工格子のNMRによる研 究	安 岡
埼 玉 大 (教 育) 助 教 授	津 田 俊 信	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 2 日)	酸化物高温超伝導体およびその関連 物質の核磁気共鳴	"
千 葉 大 (理) 助 教 授	伊 藤 正 行	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1 日)	遷移金属酸化物のNMR	"
名 大 (工) D. C. 3	高 橋 洋 志	5/18 ~ 5/23	貴金属／遷移金属多層膜の垂直磁気 異方性	"
阪 大 (基礎工) 助 教 授	那 須 三 郎	6/22 ~ 6/26	Fe中 ¹³ C の核磁気共鳴	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
徳島大 (工) 助 教 授	大野 隆	8/ 1 ~ 8/31	超伝導酸化物および関連物質のNMR	安岡
東京医大 講 師	大岩 潔	6/22 ~ 6/26 7/20 ~ 7/23	強磁性ホイスラー合金における構造 相転位とNMR	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 究員	町 敬人	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週3日)	NMRによる酸化物高温超伝導体の 研究	"
室蘭工大 (工) M. C. 2	市橋 信春	8/10 ~ 8/20	金属リン化物超伝導体の磁性	木下
明治学院大 (一般教育) 助 教 授	菅野 忠	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	有機結晶の磁性	"
群馬大 (工) 助 教 授	伊藤 和男	6/ 1 ~ 6/ 4	シリコン量子細線の低温電気伝導の 研究	家
東 大 (理) 助 教 授	十倉 好紀	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月2日)	Ti酸化物結晶の磁場中の輸送現象	"
東 大 (理) 助 手	有馬 孝尚	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月2日)	"	"
東 大 (理) M. C. 2	田口 康二郎	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月2日)	"	"
東 大 (生研) 助 手	斎藤 敏夫	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月4日)	半導体低次元電子系の電気伝導特性 に関する研究	"
東 大 (生研) 技 官	原田 和幸	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月4日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 大 (先端研) 教 授	榎 裕 之	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 3 日)	極低温強磁場中における低次元電子系の電子状態と電気伝導特性に関する研究	家
東 大 (先端研) 助 手	永 宗 靖	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 3 日)	"	"
東 大 (生 研) 助 手	松 末 俊 夫	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 3 日)	"	"
東 大 (生 研) 技 官	野 田 武 司	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 3 日)	"	"
東 大 (工) D. C. 2	野 口 裕 泰	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 3 日)	"	"
東 大 (理) D. C. 3	永 井 隆 哉	4/ 1 ~ 6/30 上記期間中 (月 5 日)	Forsterite(Mg_2SiO_4) の良質大型 単結晶の育成	武 居
お茶の水女子大 (理) 助 教 授	今 野 美智子	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1 日)	有機伝導物質の結晶構造の研究	"
お茶の水女子大 (理) M. C. 2	伊 藤 真理子	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1 日)	"	"
東 洋 大 (工) 助 教 授	勝 亦 徹	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 2 日)	光学酸化物単結晶の成長技術の研究	"
東 大 (工) 教 授	井 野 博 満	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1 日)	非平衡合金相の物性	物 質 開発室
東 大 (工) D. C. 3	崔 判 圭	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 1 日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東 大 (工) D. C. 2	早稲田 篤	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 2 日)	非平衡合金相の物性	物 質 開発室
東 大 (生研) 助 教 授	七 尾 進	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 3 日)	準結晶合金の構造研究	"
東 大 (生研) 助 手	渡 邊 康 裕	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 3 日)	"	"
岩 手 大 (工) 助 教 授	栗 栲 牧 生	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (5泊 6日・1回)	希土類金属間化合物の磁化率	電磁気 測 定
岩 手 大 (工) 技 官	佐 藤 昌 也	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
東 大 (工) 教 授	井 野 博 満	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 1 日)	La-Fe およびNd-Fe 液体急冷合金の 磁性	"
信 州 大 (理) 教 授	永 井 寛 之	7/27 ~ 8/ 1	ThMn ₁₂ 型金属間化合物の磁性	"
信 州 大 (理) M. C. 1	荻 原 富士弥	7/27 ~ 8/ 1	"	"
名 工 大 (工) 教 授	丸 野 重 雄	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (1泊 2日・1回)	デキシトラン誘電体・磁性酸化鉄超 微粒子複合体(DDM) の磁気的性質の 研究	"
名 工 大 (工) 助 教 授	坂 本 功	6/10 ~ 6/13	RGa ₂ 希土類化合物のドハース・ファ ンアルフェン効果	"
長 野 高 専 助 教 授	藤 原 勝 幸	5/26 ~ 5/28	酸化物超伝導体YBCOの水素化物の 磁化測定	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
高松高専 助教授	明神教久	7/15～7/20	希土類化合物 $(YTB)_2Co_{14}B$ の磁性研究	電磁気測定
北大 (工) 助教授	義家敏正	8/2～8/7	SiC 中の積層欠陥面の面間隔の高分解能電子顕微鏡を用いた測定	電子顕微鏡
東大 (生研) 技官	斎藤秀雄	4/1～9/30 上記期間中 (月2日)	透過電顕オートラジオグラフィと接合界面の観察	"
北大 (工) 助手	滝沢聰	6/8～6/12	第一原理計算による合金の相安定性の研究	寺倉
東工大 (総合理工学) 助手	神藤欣一	4/1～9/30 上記期間中 (週1日)	Al基合金の機械的性質に関する第一原理計算	"
静岡大 (工業短大) 教 授	浅田寿生	7/20～7/21	非局所密度汎関数法による遷移金属の電子状態	"
静岡大 (工業短大) 助教授	星野敏春	7/20～7/21	局在軌道法によるSiCを取り込んだ電子構造計算	"
九大 (理) D. C. 3	井上耕一郎	4/1～9/30 上記期間中 (30日間)	Si(001) 清浄表面の構造	"
大阪府立大 (総合) 助手	播磨尚朝	7/13～7/14	核四重極相互作用に関する理論的研究	"
金属材料技術研究所 技官	佐々木泰造	4/1～9/30 上記期間中 (月1日)	高温超電導体の電子状態	"
無機材質研 究員	小林一昭	4/1～9/30 上記期間中 (週1日)	第一原理分子動力学法による新物質の構造安定性と電子状態の研究	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
北大 (工) 助 教 授	明 楽 浩 史	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (6泊 7日・1回)	量子細線における分数量子ホール効果	安 藤
岡山大 (理) 助 教 授	原 田 獻	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (2泊 3日・1回)	磁性体における磁気的性質と光学的性質	小 谷
大阪府立大 (工) 助 手	田 中 智	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (5泊 6日・1回)	f 及び d 電子系の X 線発光スペクトルの理論	"
姫路工大 (理) 助 手	坂 井 徹	6/15 ~ 6/27	低次元磁性体の統計力学	高 橋 (實)
東北大 (教養) 教 授	安 原 洋	6/19 ~ 6/20	バンド計算のための交換・相関ポテンシャルの研究	高 田
東北大 (教養) 助 手	山 上 浩 志	6/19 ~ 6/20	アルカリ金属の多体効果をあらわに 考えたバンド計算	"
姫路工大 (理) 助 教 授	長谷川 泰 正	7/ 1 ~ 7/ 3	電子系への磁場効果の理論的研究	甲 元
埼玉大 (教養) 助 教 授	飛 田 和 男	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (月 2 日)	相関の強い量子系の理論的研究	今 田
信州大 (理) 教 授	勝 木 渥	6/11 ~ 6/12	物 性 物 理 学 史	外 来 委
日 大 (理 工) 教 授	西 尾 成 子	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1 日)	"	"
日 大 (理 工) 助 手	植 松 英 穂	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (週 1 日)	"	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
日 大 (工) 非常勤講師	小 島 智恵子	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	物 性 物 理 学 史	外来委
電 通 大 名 譲 教 授	大 山 哲 雄	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (週1日)	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
阪 大 (基礎工) 教 授	I - 1 菅 滋 正	5/11 ~ 5/16	高分解能逆光電子分光用フィルターの吸収端特性の測定	S O R
阪 大 (基礎工) 教務職員	今 田 真	5/11 ~ 5/16	"	"
阪 大 (基礎工) D. C. 1	木 村 昭 夫	5/11 ~ 5/16	"	"
阪 大 (基礎工) M. C. 1	重 岡 浩 昭	5/11 ~ 5/16	"	"
東 大 (理) 助 教 授	I - 2 十 倉 好 紀	5/18 ~ 5/30	ペロブスカイト型チタン酸化物の真空紫外反射分光	"
東 大 (理) 助 手	有 馬 孝 尚	5/18 ~ 5/30	"	"
東 大 (理) M. C. 2	岡 田 吉 美	5/18 ~ 5/30	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東 大 (理) M. C. 2	I-2 勝 藤 拓 郎	5/18 ~ 5/30	ペロブスカイト型チタン酸化物の真 空紫外反射分光	S O R
東 大 (理) M. C. 2	田 口 康二郎	5/18 ~ 5/30	"	"
東京都立大 (理) 教 授	I-3 山 口 重 雄	6/1 ~ 6/13	炭素クラスタ分子の吸収スペクトル の測定	"
東京都立大 (理) 助 手	片 浦 弘 道	6/1 ~ 6/13	"	"
東京都立大 (理) M. C. 1	入 江 範 一	6/1 ~ 6/13	"	"
神 戸 大 (理) 助 教 授	I-4 難 波 孝 夫	6/14 ~ 6/20	CeNiSnの真空紫外反射スペクトル	"
神 戸 大 (理) 助 手	太 田 仁	6/16 ~ 6/28	"	"
神 戸 大 (理) M. C. 2	松 矢 隆 史	6/16 ~ 6/28	"	"
立 教 大 (理) 教 授	I-5 窪 田 信 三	6/29 ~ 7/11	帶間エネルギーの大きいアルカリ・ ハライド結晶からの最外内殻ホール にもとづく発光の研究	"
立 教 大 (理) M. C. 2	布 谷 嘉 彦	6/29 ~ 7/3 7/ 6 ~ 7/10	"	"
阪 大 (産 研) 講 師	II-1 井 上 恒 一	5/24 ~ 5/31	多孔質シリコンの光電子分光と内殻 吸収	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
阪 大 (産 研) 教務職員	II-1 前 橋 兼 三	5/24 ~ 5/31	多孔質シリコンの光電子分光と内殻吸收	S O R
東 大 (理) 助 教 授	II-2 藤 森 淳	6/1 ~ 6/13	金 屬 性 酸 化 物 $\text{La}_{1-x}\text{Sr}_x\text{MnO}_3$, LaCuO_3 , LaNiO_3 の光電子分光	"
東 大 (理) 助 手	生天目 博 文	6/1 ~ 6/13	"	"
東 大 (理) D. C. 3	野 原 進 一	6/1 ~ 6/13	"	"
東 大 (理) M. C. 2	溝 川 貴 司	6/1 ~ 6/13	"	"
東 大 (理) M. C. 2	長 谷 泉	6/1 ~ 6/13	"	"
東 大 (理) M. C. 2	齋 藤 智 彦	6/1 ~ 6/13	"	"
東 大 (工) 助 教 授	内 田 慎 一	6/1 ~ 6/13	"	"
東 大 (理) D. C. 3	永 崎 洋	6/1 ~ 6/13	"	"
群 馬 大 (教 育) 助 教 授	II-3 奥 沢 誠	6/14 ~ 6/20	遷移金属化合物における遷移金属3p内殻準位線の共鳴光電子分光	"
群 馬 大 (教 育) 教 授	菅 原 英 直	6/14 ~ 6/20	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
群馬大 (教 育) M. C. 2	II-3 佐藤信幸	6/14 ~ 6/20	遷移金属化合物における遷移金属3p 内殻準位線の共鳴光電子分光	S O R
岡山大 (理) 教 授	II-4 岩見基弘	6/28 ~ 7/12	光電子分光法による金属/SiC界面 の電子状態	"
岡山大 (理) 助 教 授	日下征彦	6/28 ~ 7/12	"	"
岡山大 (理) 助 手	平井正明	6/28 ~ 7/12	"	"
岡山大 (理) M. C. 2	斎藤浩樹	6/28 ~ 7/12	"	"
岡山大 (理) M. C. 2	小橋寿夫	6/28 ~ 7/12	"	"
基督教大 (教養) 講 師	V-1 高倉かほる	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (4週間)	単色真空紫外線による生物影響の分 子的機構	"
基督教大 (教養) 教 授	石川光男	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (4週間)	"	"
基督教大 (教養) M. C. 2	藤田栄一郎	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (4週間)	"	"
北大 (獣 医) 助 教 授	桑原幹典	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
総合研究 大学院大 D. C. 2	渡邊立子	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (4週間)	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
総合研究 大学院大 D. C. 2	V-1 安 藤 ひろ美	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (4週間)	単色真空紫外線による生物影響の分子的機構	S O R
大阪府立大 (研究所) 講 師	恵 恒 雄	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
奈良県立医大 講 師	岡 市 協 生	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
奈良県立医大 助 手	井 原 誠	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
立教大 (理) 教 授	檜 枝 光太郎	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (4週間)	"	"
立教大 (理) 教 授	松 平 賴 曜	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (4週間)	"	"
立教大 (理) M. C. 2	梅 澤 直 司	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (4週間)	"	"
神奈川歯大 非常勤講師	峯 岸 安津子	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (4週間)	"	"
高工研 助 教 授	小 林 克 己	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (1泊 2日・1回)	"	"
基生研 助 手	渡 辺 正 勝	4/1 ~ 9/30 上記期間中 (3泊 4日・1回)	"	"
大阪教育大 (教 育) 教 授	V-2 稻 垣 卓	6/21 ~ 6/28	気体の真空紫外域光熱変換過程の研究	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
電 通 大 助 教 授	V-2 豊 田 太 郎	6/22 ~ 6/27	気体の真空紫外域光熱変換過程の研究	S O R
東 大 (核 研) 助 手	E S - 1 丸 山 浩 一	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (2週間)	核研1.36eV電子シンクロトロンのバンチ長測定によるビームダイナミクスの研究	"
東 大 (核 研) 助 手	武 藤 正 文	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (2週間)	"	"
東 大 (核 研) 技 官	増 田 均	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (2週間)	"	"
東 大 (核 研) 技 官	橋 本 義 德	4/ 1 ~ 9/30 上記期間中 (2週間)	"	"

中 性 子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
お茶の水女子大 (理) 教 授	伊 藤 厚 子	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・2回)	イルメナイト型磁性体混晶のスピンドイナミクス	中性子
お茶の水女子大 (理) M. C. 2	川 野 はづき	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・3回)	"	"
お茶の水女子大 (理) M. C. 2	岩 井 圭 子	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・2回)	"	"
千 葉 大 (理) 助 教 授	野 田 幸 男	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・2回)	水素結合型誘電体の相転移における水素の役割	"

中性子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
高工研 助教授	池田 進	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	水素結合型誘電体の相転移における 水素の役割	中性子
筑波大 (物質工学) 大学院学生	中井 祐輔	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・2回)	"	"
千葉大 (自然科学) 助手	黒岩 芳弘	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
千葉大 (理) 大学院学生	村上 智史	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
千葉大 (理) 大学院学生	田村 格良	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
埼玉大 (理) 助教授	元屋 清一郎	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (7泊 8日・5回)	遍歴電子磁性の立場から見た高濃度 金属スピングラスの研究	"
新潟大 (理) 教 授	田巻 繁	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (3泊 4日・2回)	液体金属-溶融塩混合系の中性子回 折	"
新潟大 (自然科学) 助 手	丸山 健二	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・2回)	"	"
新潟大 (自然科学) D. C. 2	白川 善幸	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
新潟大 (理) D. C. 2	臼杵 肇	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
食品総合研 室長	佐野 洋	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	ムコ多糖蛋白質複合体の内部構造	"

中性子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (理) 助教授	新村信雄	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	ムコ多糖蛋白質複合体の内部構造	中性子
東北大 (素材研) 教 授	早稲田嘉夫	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (6泊 7日・1回)	中性子回折によるGeO ₂ 系酸化物ガラスの構造解明	"
東北大 (素材研) 講 師	松原英一郎	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (6泊 7日・1回)	"	"
東北大 (素材研) 助 手	杉山和正	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (6泊 7日・1回)	"	"
繊維高分子研 主任研究官	安宅光雄	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (10泊11日・1回)	タンパク質結晶成長初期過程の研究	"
東北大 (理) 助教授	新村信雄	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (10泊11日・1回)	"	"
繊維高分子研 室長	曾良達生	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (10泊11日・1回)	"	"
筑波大 (物理工学) 助教授	大嶋建一	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・2回)	金属ナトリウムのマルテンサイト転移の研究	"
筑波大 (工学) D. C. 3	山本一樹	4/1 ~ 3/31 上記期間中	"	"
筑波大 (工学) D. C. 2	阿部洋	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・2回)	"	"
筑波大 (工学) D. C. 1	竹田寿之	4/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"

中性子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
筑波大 (理工学) M. C. 1	原田和男	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	金属ナトリウムのマルテンサイト 転移の研究	中性子
東 大 名誉教授	星埜禎男	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中	"	"
福井大 (工) 教 授	目片 守	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・2回)	層状三角格子反強磁性体の秩序化過 程	"
福井大 (工) 助 教 授	網代芳民	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・2回)	"	"
福井大 (工) M. C. 2	栗山英明	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
福井大 (工) M. C. 2	笛井浩行	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
福井大 (工) M. C. 1	浅野貴行	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
福井大 (工) M. C. 1	小原一浩	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
九大 (教養) 助 教 授	武田信一	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・2回)	液体半導体の中性子回折	"
九大 (教養) 助 手	乾 雅祝	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
京 大 (工) 教 授	志賀正幸	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	Y(Sc)Mn ₂ における巨大スピンのゆら ぎ	"

中性子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
京 大 (工) 助 手	和 田 裕 文	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (6泊 7日・1回)	Y(Sc)Mn ₂ における巨大スピニのゆらぎ	中性子
京 大 (工) 助 手	中 村 裕 之	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (6泊 7日・1回)	"	"
埼 玉 大 (理) 助 教 授	元 屋 清一郎	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
東 工 大 (理) 教 授	飯 尾 勝 矩	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	中性子回折による六方晶 AX ₂ 型競合 磁気系の1次転移を伴う逐次相転移	"
東 工 大 (理 工 学) M. C. 2	佐 藤 卓	4/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	"	"

平成4年度中性子回折装置共同利用課題採択一覧

希望装置名：4G（24件）

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
広島大・理	伊 東 一 幸	強誘電体RbHSO ₄ の秩序変数の構造的研究
東大・物性研	吉 澤 英 樹	汎用三軸型中性子分光器による中性子散乱
お茶の水女子大・理	伊 藤 厚 子	イルメナイト型磁性体混晶のスピンドイナミクス
千葉大・理	野 田 幸 男	水素結合型誘電体の相転移における水素の役割
埼玉大・理	元 屋 清 一 郎	遍歴電子磁性の立場から見た高濃度金属スピングラスの研究
新潟大・理	田 卷 繁	液体金属-溶融塩混合系の中性子回折
福岡教育大・教育	橋 本 侑 三	RNi ₂ Si ₂ 単結晶の中性子回折II
九大・理	日 高 昌 則	T1-4 熱蛍光体検出型中性子回折カメラ系の試作
東北大・金研	梶 谷 剛	低エネルギー非弾性および準弾性散乱強度の測定法
東北大・素材工学研	早 稲 田 嘉 夫	中性子回折によるGeO ₂ 系酸化物ガラスの構造解明
東大・物性研	藤 井 保 彦	斜方晶C ₆₀ の格子振動
愛媛大・工	富 吉 昇 一	有機磁性体の中性子回折
福井大・工	目 片 守	層状三角格子反強磁性体の秩序化過程
山形大・工	和 泉 義 信	高分子-希釈剤系のゾル-ゲル転移の中性子散乱による研究
阪大・理	都 福 仁	122ウラン化合物における磁気相転移
九大・教養	武 田 信 一	液体半導体の中性子回折
北大・理	網 塚 浩	UPd ₂ Si ₂ の磁気秩序
山口大・理	増 山 博 行	A ₂ BX ₄ 型誘電体の低温での構造相転移とソフトフォノン
山口大・理	岩 田 允 夫	DyRu ₂ Si ₂ の逐次磁気相転移
東北大・理	神 木 正 史	CePの磁気構造の研究
北大・応用電気研	八 木 駿 郎	重水素ADPにおける中性子散漫散乱
東大・物性研	毛 利 信 男	超高压下におけるCeSbの磁気構造
東大・物性研	毛 利 信 男	超高压下におけるCeAsのINS
東北大・金研	加 藤 宏 朗	ランダム希釈反強磁性混晶Fe _{1-x} Mg _x TiO ₃ の磁気構造と磁気励起

希望装置名：5G（34件）

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
京大・原子炉実験所	川野眞治	希土類金属Hoとその合金におけるspin slip構造の非弾性散乱による研究
東大・物性研	吉澤英樹	有機物強磁性体 β -NPNNの偏極解析
千葉大・理	野田幸男	水素結合型誘電体の相転移における水素の役割
埼玉大・理	元屋清一郎	遍歴電子磁性の立場から見た高濃度金属スピングラスの研究
福岡教育大・教育	橋本侑三	RNi ₂ Si ₂ 単結晶の中性子回折II
筑波大・物理工学系	大嶋建一	金属ナトリウムのマルテンサイト転移の研究
愛媛大・工	富吉昇一	有機磁性体の中性子回折
阪大・基礎工	大嶋隆一郎	FeRh合金の一次相転移の研究
阪大・基礎工	小野寺昭史	高圧下における γ -Feの磁性の研究
福井大・工	高島正之	導電性希土類酸化フッ化物のアニオン配座
阪大・理	角田頼彦	メゾスコピックなスピニ系のゆらぎの研究
阪大・理	都福仁	Ce(Ru _{1-x} Rh _x) ₂ Si ₂ の磁性とLaRu ₂ Si ₂ 中Uの結晶場効果
阪大・理	都福仁	122ウラン化合物における磁気相転移
北大・理	網塚浩	UPd ₂ Si ₂ の磁気秩序
山口大・理	岩田允夫	DyRu ₂ Si ₂ の逐次磁気相転移
名大・理	佐藤正俊	(La, Nd, Sr) ₂ CuO ₄ の低温正方晶の磁性
名大・理	佐藤正俊	Y系高温超伝導体の磁気・格子励起と超伝導との相関
阪大・理	河原崎修三	基底一重項磁性体の相転移の動力学
阪大・理	河原崎修三	Cr-Fe合金系のリエントラントスピングラス現象の研究
京大・工	志賀正幸	Y(Sc)Mn ₂ における巨大スピノのゆらぎ
東北大・理	神木正史	Yb ₄ As ₃ のチャージオーダーの研究
東大・物性研	門脇広明	ヘリカル磁性体の多重臨界現象の研究
東大・物性研	西正和	YbNiSn単結晶の偏極中性子散乱
東大・物性研	西正和	La _{2-x} Sr _x CuO ₄ の中性子非弾性散乱
東大・物性研	毛利信男	超高压下におけるCeAsのINS
東大・物性研	加倉井和久	S=1/2, 反強磁性三角格子のスピンドイナミクスの研究
東大・物性研	加倉井和久	疑一次元スピニ相関における量子効果
東大・物性研	加倉井和久	T2-2 超低温下における中性子散乱
東大・物性研	加倉井和久	熱中性子三軸スピニエコー実験方法の開発(P)

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
東大・物性研	加倉 井和久	PONTAにおける偏極中性子散乱モードの開発(P)
東大・物性研	加倉 井和久	反強磁性物質MnTiO ₃ のスピニ・フロップ転移近傍のスピンドライナミクス
東北大・金研	山 口 泰 男	遍歴電子磁性体(Mn, Cr) ₃ Siの磁気構造と磁気励起
神戸大・理	本 河 光 博	CsNiCl ₃ の磁場誘起相転移
阪大・理	白 鳥 紀 一	LuFe ₂ O ₄ の電荷一スピニ秩序の偏極中性子解析

希望装置名：HQR（7件）

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
埼玉大・理	元屋 清一郎	遍歴電子磁性の立場から見た高濃度金属スピングラスの研究
阪大・理	角田 順 彦	T1-1 TAS分光器の調整及び分光法の開発
阪大・理	角田 順 彦	一軸性圧力下でのSDWの安定性の研究
阪大・理	都 福 仁	122ウラン化合物における磁気相転移
東大・物性研	加倉 井和久	超低温下における中性子散乱
神戸大・理	本 河 光 博	CsNiCl ₃ の磁場誘起相転移
阪大・理	高橋 泰洋	2、3の高分子の結晶構造

希望装置名：HER（7件）

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
埼玉大・理	元屋 清一郎	遍歴電子磁性の立場から見た高濃度金属スピングラスの研究
高工研・ブースター	池田 宏信	パーコレーションネット上の異常スピニ拡散
広島大・総合科学	藤井 博 信	CeTSn単結晶(T=Ni, Pt)の中性子散乱
阪大・理	都 福 仁	Ce(Ru _{1-x} Rh _x) ₂ Si ₂ の磁性とLaRu ₂ Si ₂ 中Uの結晶場効果
山口大・理	増山 博 行	A ₂ BX ₄ 型誘電体の低温での構造相転移とソフトフォノン
阪大・理	河原崎 修三	基底一重項磁性体の相転移の動力学
東工大・理	飯尾 勝 矩	中性子回折による六方晶AX ₂ 型競合磁気系の1次転移を伴う逐次相転移

希望装置名：SANS-U（27件）

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
京大・理	伊藤忠直	イノシトール・リン脂質(PIP ₂)とゲルゾリンとの相互作用
京大・原子炉実験所	山岡仁史	中性子散乱法によるエンジニアリングプラスチックの分子鎖形態の研究
東大・物性研	吉澤英樹	2次元三角格子反強磁性体LiNiO ₂ の小角散乱
食品総合研究所	佐野洋	ムコ多糖蛋白質複合体の内部構造
東北大・理・核理研	新村信雄	イノシトール・リン脂質(PIP ₂)の構造と膜機能
東北大・理・核理研	新村信雄	Lysozymeの分子運動における水素原子および水和水の寄与の評価
東北大・理・核理研	新村信雄	HU蛋白質・DNA複合体の構造とそのkinetics
繊維高分子材料研究所	安宅光雄	タンパク質結晶成長初期過程の研究
自治医大・医	原田三男	中性子小角散乱による好熱菌ATP合成酵素の構造の研究
山形大・工	和泉義信	高分子一希釈剤系のゾルーゲル転移の中性子散乱による研究
京都工繊大・繊維	野村春治	ポリビニルアルコール／イオンコンプレックス系ゲルの構造解析
京大・工	橋本竹治	相容化剤としてのブロックコポリマーを含む高分子ブレンド界面の研究
京大・工	橋本竹治	無秩序状態におけるブロックコポリマー鎖の形態に関する研究
京大・工	橋本竹治	小角中性子散乱法を用いた高分子混合系の相溶性に関する研究
京大・工	橋本竹治	孤立した球状ブロックコポリマーミセルの半径の測定
阪大・蛋白質研	佐藤衛	中性子小角散乱法による酵母産生B型肝炎ワクチン粒子の構造研究
阪大・理	田代孝二	ポリエチレンブレンド試料における分子鎖の空間配置に関する研究
阪大・理	小林雅道	ポリスチレンの立体規則性とゲル形成の機構
名大・工	野田一郎	凝集構造中の共重合体鎖の分子形態
群馬大・教養	平井光博	磁場配向緩和による溶液散乱
京大・化学研究所	梶慶輔	高分子電解質溶液の構造
広島大・総合科学	武田隆義	高分解能小角散乱による生体膜の研究
広島大・総合科学	瀬戸秀紀	マイクロエマルジョン系の秩序形成過程
広島大・総合科学	好村滋洋	酸化物高温超伝導体の磁束線格子構造
阪大・理	徳永史生	光回復酵素の構造解析
東大・物性研	伊藤雄而	二次元位置測定小角散乱装置の調整・開発研究
京大・工	長村光造	高温超伝導体中の磁束線格子の異方性と不規則化過程に関する研究

希望装置名：ULIF（6件）

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
京大・原子炉実験所	海老澤 徹	シリコン二結晶法による多層膜ミラーの完全性（人工格子として）の評価
山形大・工	和泉義信	高分子一希釈剤系のゾルゲル転移の中性子散乱による研究
京都工織大・繊維	野村春治	ポリビニルアルコール／イオンコンプレックス系ゲルの構造解析
京大・化学研究所	梶慶輔	高分子の結晶化前の構造形成
東大・物性研	高橋敏男	コヒーレント中性子ビームによる非弾性散乱の研究
東大・物性研	高橋敏男	高分解能後方散乱装置の開発 ULIF

希望装置名：NSM及びNSE（2件）

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
広島大・総合科学	好村滋洋	中性子スピニエコ一分光器の開発（IMT課題）
東大・物性研	伊藤雄而	中性子スペクトル変調・時間分析装置の調整・開発研究

希望装置名：ACC（1件）

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
阪大・理	河原崎修三	三号炉中性子散乱実験用特殊アクセサリの開発

希望装置名：2号炉 PANSI（4件）

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
山形大・理	亀田恭男	溶融In-As ₂ Te ₃ 系の中性子回折
新潟大・理	田巻繁	液体金属-溶融塩混合系の中性子回折
茨城大・理	佐久間隆	超イオン導電体の中性子回折
東北大・素材工学研	早稲田嘉夫	中性子回折によるGeO ₂ 系酸化物ガラスの構造解明

希望装置名：TOPAN (6G) (7件)

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
高工研・ブースター	池田 宏信	希釈反強磁性体のスピニ波-フラクトンクロスオーバー
東北大・金研	梶谷 剛	中性子回折による金属材料および電磁気材料の研究
東北大・理	神木 正史	CePの磁気構造の研究
東北大・理	山田 和芳	高温超伝導銅酸化物のスピニ揺動
東北大・理	遠藤 康夫	典型的遍歴強磁性体のスピニ相関
東北大・理	遠藤 康夫	TOPANによる中性子散乱研究
東北大・理	遠藤 康夫	新しい型の超伝導ヘヴィフェルミオン系の磁気相転移

希望装置名：KSD及びKPD (6件)

所 属	氏 名	研 究 課 題 名
東工大・工業材料研	吉村 昌弘	ジルコニア固溶体における立方一正方相転移
東北大・金研	梶谷 剛	中性子回折による金属材料および電磁気材料の研究
福井大・工	高島 正之	導電性希土類酸化フッ化物のアニオン配座
阪大・理	田代 孝二	ポリエチレンブレンド試料における分子鎖の空間配置に関する研究
東北大・金研	山口 泰男	化合物磁性体の結晶構造および磁気構造の研究
豊橋技大・工	堤 和男	ゼオライト骨格の高次構造および吸着分子の微細構造の解析

平成4年度後期共同利用の公募について

1. 公募事項（別紙要項参照）

(1) 留学研究員・共同利用（平成4年10月～平成5年3月実施分）

(2) 短期研究会 （平成4年10月～平成5年3月実施分）

2. 申請資格：国、公、私立大学及び国、公立研究機関の教官、研究者並びにこれに準ずる者。

3. 申請方法：(1) 共同利用については、外来研究員申請書を提出のこと。ただし、軌道放射物性研究施設の共同利用については、申請方法が異なるので66～67ページを参照のうえ、申請のこと。

(2) 短期研究会については、提案代表者より短期研究会申請書を提出のこと。

4. 申請期限：平成4年6月30日（火）厳守

5. 申込み先：〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号

東京大学物性研究所 総務課 共同利用掛

電話(03)3478-6811 内線5031, 5032

6. 審査：研究課題の採否、所要経費の査定等は共同利用施設専門委員会において行い、教授会で決定する。

7. 採否の判定：平成4年9月下旬

8. 研究報告：共同利用研究（共同利用及び留学研究員）については1期（半年）ごとに実施報告書（所定の様式による）を提出のこと。また、共同利用研究によって得た成果の論文の別刷2部を総務課共同利用掛あて提出のこと。

9. 宿泊施設：(1) 東京大学物性研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。

(2) 軌道放射物性研究施設の共同利用については、東京大学原子核研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。

10. 学生教育研究災害傷害保険の加入：大学院学生は『学生教育研究災害傷害保険』に加入されるようご配慮願いたい。

外来研究員について

物性研究所においては、共同利用研究業務として、全国物性研究者の研究遂行に資するため、各種研究員制度が設けられています。これら研究員の公募は、半年ごとに行っております。外来研究員制度は個々の申請を検討のうえ実行されておりますが、特別な事情のある場合を除いて、あらかじめ共同利用施設専門委員会の了承を得る建前をとっておりますので、下記ご参照のうえ期日までに応募されるようお願いします。

その他、外来研究員制度の内容あるいは利用する設備等に関してお判りにならないことがあれば、外来研究員等委員会委員長 三浦 登（内線5111）までご連絡ください。

なお、留学研究員または共同利用に申請される場合は、事前に必ず利用される研究室等の教官と打ち合わせのうえ申請書を提出してください。

申請書用紙が必要な方は総務課共同利用掛（内線5031、5032）までご請求ください。

記

1. 各種研究員

a. 嘱託研究員

- (1) 所外研究者に本所の研究計画及び共同研究計画の遂行上必要な研究を委嘱することを目的としています。
- (2) 嘱託研究員の委嘱は、本所所員の申請に基づいて、研究計画等を検討のうえ決定します。

b. 留学研究員

- (1) 大学、官庁、その他の公的研究機関に在籍する若い研究者に、留学の便宜を提供することを目的とした制度です。
- (2) 資格としては、助手ないし大学院博士課程程度の研究歴に相当する方を対象としています。
- (3) 研究は所員の指導のもとで行います。大学院学生の場合、原則として指導教官を嘱託研究員に委嘱します。
- (4) 申請は別紙（様式1）の申請書を提出してください。（必要な方は直接総務課共同利用掛までご請求ください。）

c. 共同利用

○ 一般の共同利用

- (1) 所外研究者が研究の必要上、本所の施設を利用したい場合、その便宜を提供できるようにしております。

(2) 共同利用は「共同研究」と「施設利用」の2つの形態に分けられます。共同研究と施設利用では採択率、充足率が異なる場合があります。

また、共同研究、施設利用それぞれに、1年以内に研究を集中して遂行する「短期集中型」の利用形態が設けられています。短期集中型を希望して認められた場合には充足率を高くしますが、その後しばらくの期間、共同利用を見合せていただくことがあります。

(3) 共同利用をご希望の方は、別紙（様式2）の申請書を提出してください。

○ 軌道放射物性研究施設の共同利用

0.38GeV電子ストリーリング（S O R - R I N G）からの放射光を用いる共同利用実験の申込みについてはマシンタイムの調整を行う必要上、物性研共同利用の正式申込みの以前に下記の要領で物性研軌道放射物性研究施設あて申込んでください。

(1) 対象となる実験：E S 及びS O R - R I N Gからの放射光を利用する実験。

(2) 実験期間：平成4年10月中旬から平成5年3月中旬までの期間で、利用できるマシンタイムは総計約3か月間。ただし、各ビームラインによって多少異なります。

(3) 利用できる設備：(1) S O R - R I N G第1ビームライン

1M縦分散瀬谷－波岡型直入射分光器

(2) S O R - R I N G第2ビームライン

2M縦分散変形ローランド型斜入射分光器、

光電子分光測定装置一式

(3) S O R - R I N G第3ビームライン

変形ワーズワース型直入射分光器

(4) S O R - R I N G第4ビームライン

平面回折格子型斜入射分光器

(5) S O R - R I N G第5ビームライン

(6) S O R - R I N G第1'ビームライン

自由ポート

なお、第3、第4ビームラインでの実験及び準備研究的な実験については、申込み前に当施設に御相談ください。

(4) 申込み要領

- (1) 希望するビームライン
- (2) 申請研究課題
- (3) 申請代表者及び実験参加者、所属・職・氏名
- (4) 実験期間及び実施希望時期

- (5) 実験の目的・意義及び背景 (1,000字程度でわかりやすく書いてください。)
- (6) 関連分野における申請者のこれまでの業績 (5編以内)
- (7) 実験の方法 (800字程度、危険物や超高真空系を汚染する可能性のある物質等を使用する場合は、明示のうえ安全対策の方法を記すこと。)
- (8) 使用装置 (持込み機器も含めて)
- (9) 物性研共同利用施設運営費よりの負担を希望する消耗品の種類と費用の概算

上記項目につき記入した申請書のコピー8部 (A4サイズ用紙) を下記申込み先あて送付してください。

(5) 申込み先: 〒188 東京都田無市緑町3丁目2番1号
東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設
電話 (0424) 61-4131 内線 328, 307, 346
(「共同利用申込み」と表記のこと)

(6) 申込み期限: 平成4年6月12日(金)必着とします。

(7) 審査: 物性研軌道放射物性研究施設運営委員会において審査し、採用された研究課題についてはその実験計画に従い改めて物性研外来研究員申請書及び放射線業務従事承認書を直接総務課共同利用掛 (〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号 東京大学物性研究所) に提出していました

だきます。

2. 採否決定

上記各種研究員受入れの可否は、共同利用施設専門委員会において、申請された研究計画、研究歴及び所内諸条件を審査検討し、教授会で決定します。

採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」に従って、別紙(様式6)の「放射線業務従事承認書」を提出していただきます。

3. 実施報告書

留学研究員及び共同利用で来所の方には、1期(半年)ごとに終了後30日以内に別紙(共同研究及び短期集中型の施設利用は様式4、一般の施設利用及び留学研究員は様式5)による外来研究員実施報告書を提出していただきます。

4. 別刷の提出

外来研究員として来所されて行われた研究に関する論文の別刷2部を必ず総務課共同利用掛に提出してください。また、論文を発表される場合、謝辞の所に東京大学物性研究所の共同利用に

よる旨の文章を入れていただくことを希望します。英文の場合の参考として、次のような例文をあげておきます。

- a) This work was carried out under the Visiting Researcher's Program of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- b) This work was carried out by the joint research in the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- c) This work was performed using facilities of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.

5. 経 費

旅費、滞在費及び研究に要する経費は、個々の申請に基づいて共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。

6. そ の 他

- (1) 予算の支出、諸施設の利用、設備の管理等については、関係する所員の指示に従ってください。
- (2) 申請書は、必ず別紙様式のものを使用してください。

共同利用施設専門委員会委員

岩澤 康裕 東大(理)	小菅皓二 京大(理)
小林雅通 阪大(理)	小松原武美 東北大(理)
池田宏信 高エネルギー研	吉成武久 山形大(理)
永田一清 東工大(理)	大林康二 広島大(総合)
佐藤正俊 名大(理)	津田惟雄 東京理科大(理)
高山一 筑波大(物理学系)	本河光博 神戸大(理)
武田三男 信州大(教養)	秋光純 青山学院大(理工)
藤田敏三 広島大(理)	櫛田孝司 阪大(理)
都福仁 阪大(理)	張紀久夫 阪大(基礎工)
宮原恒昇 高エネルギー研	十倉好紀 東大(理)
花崎一郎 分子科学研究所	その他物性研所員

短期研究会について

短期研究会は、物性研究上興味深い特定のテーマについて全国の研究者が1～3日間程度研究会を開き、集中的に討議するもので、提案代表者は内容、規模等について関係研究者と十分検討のうえ、申請してください。

記

1. 申 請 方 法：代表者は別紙申請書（様式3）を提出してください。
2. 提案理由の説明：提案代表者は、内容、規模等について共同利用施設専門委員会で説明していただきます。
3. 採 否 決 定：共同利用施設専門委員会の審議を経て教授会が決定します。
4. 経 費：共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。
5. 報 告 書：提案代表者は、研究会終了後すみやかに物性研により掲載する研究会報告書を提出してください。執筆に関する要領は別にお知らせします。

外 来 研 究 員 等 の 放 射 線 管 理 内 規

(昭和57.7.21制定)

放射線障害予防規程第45条第3項に定める外来研究員等の放射線管理については以下のとおりとする。

1. 六本木地区

- (1) 物性研究所放射線管理室（以下「管理室」という。）は、外来研究員等の共同利用申込が承認された時に、その所属する大学又は事業所に対し「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」及び「放射線業務従事承認書」を送付する。
- (2) 外来研究員等は、放射線取扱いに先立って「放射線業務従事承認書」を管理室に提出するものとする。
- (3) 本所の放射線施設及び放射線発生装置等を初めて利用する外来研究員等に対し、当該施設の放射線管理責任者は、放射線取扱いの開始前に放射線発生装置あるいは放射性物質等の安全取扱い、立入記録の記入等についての教育訓練を実施する。
- (4) 放射線管理責任者は、外来研究員等について、フィルムバッジ等の着用の有無を確認し、それ等を持たない場合は、個人被曝線量計を貸与し被曝線量当量を測定し記録するものとする。

2. 日本原子力研究所内（東海村）－中性子回折実験装置

中性子回折実験装置等を利用する外来研究員等は、日本原子力研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

3. 東大原子核研究所内（田無市）－軌道放射物性研究施設

軌道放射物性研究施設を利用する外来研究員等の放射線管理については、「軌道放射物性研究施設に係る覚書」によって行う。

4. 高エネルギー物理学研究所内設置の軌道放射物性研究施設分室を利用する外来研究員等は、高エネルギー物理学研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

附 則

この内規は、平成元年4月1日から施行する。

物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項

1. 外来研究員等及び所属機関の責任者は、物性研究所の放射線施設の利用に際して、以下の事項を承諾するものとする。
 2. 外来研究員等は、本所放射線障害予防規程及び当該放射線施設の管理内規に従う。
 3. 外来研究員等が利用する放射線施設等に係る管理責任（放射線発生装置、放射性物質の安全取扱い、管理区域等の線量当量の測定等の管理）は、物性研究所にあるが、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」等で定める放射線業務従事者としての認可及び個人管理は、外来研究員等の所属機関の責任において行う。
- 放射線業務従事者としての認可及び個人管理とは、
 - (1) 教育訓練（物性研究所における放射線発生装置等の安全取扱いに係る教育訓練は除く）の受講。
 - (2) 血液検査などの健康管理。
 - (3) 個人被曝線量当量の測定。
 - (4) 放射線業務に従事することの可否の判定。
4. 放射線業務に従事する外来研究員等は、所属機関の放射線取扱主任者及び管理責任者が認める放射線業務従事承認書を、物性研究所放射線管理室に提出する。
5. 個人被曝線量計（フィルムバッジ等）は、原則として所属機関より持参し、着装して放射線業務に従事するものとする。
但し、個人被曝線量計のない場合は、当該施設又は放射線管理室が貸与する。

様式 1

外来研究員（留学研究員）申請書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 _____

職名又は学年 _____

氏 名 _____

①

級号俸 _____

級号俸 _____

級号俸発令年月日（ 年 月 日） _____

申請者の連絡先 電話 _____

内線 _____

FAX _____

下記研究計画により留学研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目 _____

研究目的 _____

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。

○研究予定期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

○放射線業務に従事することの有無。 有 無 (○で囲むこと)

希望部門 研究室名 (部門 研究室)

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。 してない している

申請している場合の研究室、共通実験室名 ()

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」にしたがって、「放射線業務従事承認書」（様式 6）を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者（日帰り）

月 日 ～ 月 日 (週・月 日)

月 日 ～ 月 日 (週・月 日)

月 日 ～ 月 日 (週・月 日)

② 宿泊を必要とする申請者

月 日 ～ 月 日 (泊 日) 月 日 ～ 月 日 (泊 日)

月 日 ～ 月 日 (泊 日) 月 日 ～ 月 日 (泊 日)

月 日 ～ 月 日 (泊 日) 月 日 ～ 月 日 (泊 日)

物性研宿泊施設 原子核研宿泊施設 その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される されない

利用頻度： ① 新規 ② 過去 5 年間何回位利用していますか。（回）

略歴

○大学院学生は学歴を記入のこと。

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成 年 月 日

申請者の所属長職・氏名

印

様式 2

外来研究員（共同利用）申請書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 _____

職名又は学年 _____

氏 名 _____

㊞

級号俸 _____

級 _____

号俸 _____

級号俸発令年月日（ 年 月 日） _____

申請者の連絡先 電話 _____

内線 _____

FAX _____

下記研究計画により外来研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目（グループで研究する場合は代表者名を記入すること。）

研究目的（グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。）

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。（グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。）

○短期集中型を希望する場合、期間（原則として1年以内）を明記してください。

平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

○共同研究・施設利用を希望する。（○で囲むこと）

○放射線業務に従事することの有無。 有。 無。（○で囲むこと）

希望部門 研究室名（ _____

部門 _____

研究室）

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。 していない している

申請している場合の研究室、共通実験室名（ _____)

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」にしたがって、「放射線業務従事承認書」(様式 6)を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者 (日帰り)

月 日 ~ 月 日 (週・月 日)

月 日 ~ 月 日 (週・月 日)

月 日 ~ 月 日 (週・月 日)

② 宿泊を必要とする申請者

月 日 ~ 月 日 (泊 日) 月 日 ~ 月 日 (泊 日)

月 日 ~ 月 日 (泊 日) 月 日 ~ 月 日 (泊 日)

月 日 ~ 月 日 (泊 日) 月 日 ~ 月 日 (泊 日)

物性研宿泊施設 原子核研宿泊施設 その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される されない

利 用 頻 度 : ① 新規 ② 過去 5 年間何回位利用していますか。 (回)

略 歴

○大学院学生は学歴を記入のこと。

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成 年 月 日

申請者の所属長職・氏名

印

様式 3

短期研究会申請書

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

提案代表者

所 属

職 名

氏 名

印

連絡先 電 話 内線
F A X

下記のとおり短期研究会の開催を提案したいので申請します。

記

1. 研究会の名称

2. 提案理由

理由書は、400字以上600字まで（B5版横書き）とし、提案理由及び研究会内容がよくわかるように記載してください。

特に物性研で開催することの必要性や意義を明記してください。

3. 開催期間

月 日 ～ 月 日 (日間)

開始時間 _____ :

4. 参加予定者数 約 名

5. 希望事項 (○で囲む)

予稿集 : 有 • 無 その他希望事項

公開 • 非公開

6. その他(代表者以外の提案者)

所属機関・職名を記入のこと

7. 旅費の支給を必要とする者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

8. その他主要参加者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

様式 4

平成 年 月 日

外來研究員共同研究実施報告書
施設利用(短期集中型)

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

印

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

① 研究題目

② 利用期間

自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日

③ 利用研究室または

共通実験室名

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏名	職名	所属名	備考

⑤ 研究実施経過(利用機器、利用手段方法、成果、約1,000字(B5版横書き))

⑥ 成果の公表の方法(投稿予定の論文のタイトル、雑誌名など。短期集中型の場合は終了時のみ)

注 意

- (1) グループ研究の場合は、代表者が記入のこと。
- (2) 各期終了後30日以内に提出すること。

様式 5

平成 年 月 日

外 来 研 究 員 施 設 利 用 実 施 報 告 書

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名



下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

① 研究題目

② 利用期間 自 平成 年 月 日

 至 平成 年 月 日

③ 利用研究室または

共同実験室名 _____

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏 名	職 名	所 属 名	備 考

⑤ 研究実施経過（利用機器、利用手段方法、成果、約400字（B5版横書き））

注 意

- (1) グループ研究の場合は、代表者が記入のこと。
- (2) 各期終了後30日以内に提出すること。

様式 6

平成 年 月 日

放 射 線 業 務 従 事 承 認 書

東京大学物性研究所長 殿

機 関 名

所 在 地

放射線取扱主任者名

印

所属機関代表者名

印

当機関は、「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」を承諾して、下記の者が貴研究所において放射線業務に従事することを承認しましたのでよろしくお願ひします。

なお、下記の者については、当機関において放射線障害防止法、あるいは人事院規則（10-5）等の法規に基づいて放射線業務従事者として管理が行われていることを証明します。

記

氏 名	年令	身 分	所属学科・部課等	年現在の 合計被曝線量 当量 (mSv)	過去 1 年間 の被曝線量 当量 (mSv)
放射線業務従事期間			年 月 日から		年 月 日まで
物性研究所利用施設					

(注) この承認書の有効期間は、年度末までです。

Technical Report of ISSP 新刊リスト

Ser. A

- No. 2514 Controlled Frustration in the Antiferromagnetic Triangular Lattice $\text{LiNi}_{1-x}\text{Co}_x\text{O}_2$ ($0 \leq x \leq 1$). by Kazuma Hirota, Hideki Yoshizawa and Masayasu Ishikawa.
- No. 2515 NMR and MQR Studies of $\text{U}_3\text{Co}_3\text{Sb}_4$ and $\text{U}_3\text{Ni}_3\text{Sb}_4$. by Tetsuo Ohama, Hiroshi Yasuoka, Toshiro Takabatake and Hironobu Fujii.
- No. 2516 Observation of the Local Magnetic Moment in the Mott Transition of V_2O_3 by Means of 3s Photoemission. by S. Shin, Y. Tezuka, T. Kinoshita, A. Kakizaki, T. Ishii, H. Ueda, W. Jang, H. Takei, Y. Chiba and M. Ishigame.
- No. 2517 Incommensurate Magnetic Phases in Nd In_3 near T_n . by Setsuo Mitsuda, P. M. Gehring, G. Shirane, Hideki Yoshizawa and Yoshichika Ōnuki.
- No. 2518 Structural and Superconducting Properties of Oxygenated $\text{La}_{2-x}\text{M}_x\text{CuO}_{4+y}$ ($\text{M}=\text{Sr, Ba}$; $0 \leq x \leq 0.1$). by Yutaka Ueda, Yohko Fujiwara, Akihiko Hayashi, Kazuyuki Shibutani and Rikuo Ogawa.
- No. 2519 Study of the $\text{Si}(111)\sqrt{3} \times \sqrt{3}-\text{Sb}$ Structure by X-Ray Diffraction. by Shinichiro Nakatani, Akira Saito, Yuji Kuwahara, Toshio Takahashi, Masakazu Aono and Seishi Kikuta.
- No. 2520 Magnetic Excitations and Phase Diagram of High T_c Cuprates. by Hidetoshi Fukuyama.
- No. 2521 Low Temperature Magnetic Properties of Ferromagnetic Organic Radical, p -NPNN. by Y. Nakazawa, M. Tamura, N. Shirakawa, D. Shiomi, M. Takahashi, M. Kinoshita and M. Ishikawa.
- No. 2522 Spin Liquid Ground State of the Half-Filled Kondo Lattice in One Dimension. by H. Tsunetsugu, Y. Hatsugai, K. Ueda and M. Sigrist.

No. 2523 String Correlations of Quantum Antiferromagnetic Spin Chains with $S=1$ and 2.
by Yasuhiro Hatsugai.

No. 2524 Theory of X-Ray Emission and Photoemission Coincidence Spectroscopy. by
Satoshi Tanaka and Akio Kotani.

No. 2525 Cohesive Properties of Iron by the Generalized Gradient Approximation. by
Toshio Asada and Kiyoyuki Terakura.

No. 2526 Anomalous Decrease of Scattered N_2^+ Ion Yield from Al(111). by Michio Okada
and Yoshitada Murata.

No. 2527 Antiferromagnetism of the $t-j$ Model in the Slave-Boson Mean Field Approximation.
by Hiroshi Matsukawa and Hidetoshi Fukuyama.

No. 2528 Fermi Surface and Spin Fluctuations in Extended $t-j$ Model. by Tetsufumi
Tanamoto, Hiroshi Kohno and Hidetoshi Fukuyama.

No. 2529 Theory of Core-Level Spectroscopy of Rare-Earth Oxides. by Akio Kotani and
Haruhiko Ogasawara.

Activity Report of Synchrotron Radiation Laboratory, 1991.

'92 第37回物性若手夏の学校

日 時 1992年7月25日（土）-29日（水）

場 所 リゾートイン菅平スイスホテル（〒386-22長野県小県郡真田町菅平高原）

費 用 参加費 5,000円、宿泊費 6,000円（1泊3食）

目 的 物性各分野の研究について理解を深め、知見を広げ、現在の研究動向を知るとともに、
若手物性研究者間の交流を深める。

内 容 講義前半（25, 26日）

励起子の光物性と量子サイズ効果 東北大理 伊藤 正

相転移とパターン形成 お茶の水大理 太田 隆夫

臨界現象とフラクタル 神戸大理 高安 秀樹

電子線ホログラフィーとその応用 日立基礎研 外村 彰

表面における動的過程 東大物性研 村田 好正

シンポジウム（27日）「自然はどこまで理解できるか」

宇宙論研究の現状と展望 東大理 佐藤 勝彦

生態学と拡散 京大理 重定南奈子

量子非破壊測定 東大教養 清水 明

水惑星地球と核酸、蛋白質 宇宙研 清水 幹夫

講義後半（28, 29日）

銅酸化物高温超伝導体と強相關系の物理 東大物性研 今田 正俊

クラスターの科学-C₆₀・フラーレンを中心にして 日本電気基礎研 斎藤 晋

半導体量子構造における電子伝導 東大先端研 榊 裕之

量子スピン系の秩序と相転移 東工大理 西森 秀穂

サブゼミナール

磁性、光物性、誘電体、表面、低温、形の物理、生物物理、物性基礎論、計算物理

参加申込方法、その他、詳細については下記へ御連絡ください。

連絡先 〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部物理 鈴木研究室

'92 物性若手夏の学校準備局 代表 小林礼人

電話 03-3812-2111 内線4196

編 集 後 記

今年の春も2人の停年退官所員をお送りし、新たに2人の所員を
初めとして多数の新人を迎えました。

本号では、昨年度着任された神谷、藤井両所員の原稿と久し振り
の研究室だよりがのっています。山田先生には退官間際のお忙しい
時期にどうも有難うございました。

さて、本年度は物性研創立35周年にあたっており、一般公開など
も計画されています。読者の皆様も御意見、御要望をどしどしお寄
せください。

次号の原稿の締切は6月10日です。

石 本 英 彦
今 田 正 俊

